



ニーチエの身体／屍体 [上巻]

美学、政治学、予言をめぐって、あるいは、日常生活のスペクタクルとしてのテクノカルチャー

ジェフ・ウェイト著

福井和美 訳

書肆心水

NIETZSCHE'S CORPS/E
by Geoff Waite

Copyright © 1996 by Duke University Press

Japanese translation published by arrangement with Duke University Press
through The English Agency (Japan) Ltd.

二一
チエの身体／屍体

目次

〔上巻〕

プロローグ 15

1 ニーチェ、敵対者としての唯一のポジション 17

唯一のポジション 18

敵対者としての「incorporation」 26

概念としてのニーチェ／主義（スピノザ） 44

行のあいだ 50

構造因果性（アルチュセール対ハイデガー） 62

身体／屍体 85

論争と仮説 94

議論のアウトライン、事実との一致を本質としない文献学 108

ユートピック——ニーチェ対フロイト対マルクス 146

「the Un/connay（不気味／狡猾さ）」についての注記 171

2 解釈を超えるチヤンネリング 177

スローガンについて——美学、政治学、予言 178

美学 179

政治学 187

予言 189

左派ニーチェもどき、右派ニーチェ主義者 201

バタイユ（「チャンネル3」）からニーチェ（「チヤンネル4」）へ 2336

注

271

〔下巻〕

3 ニーチェの秘教性記号論

459

ニーチエ

460

デリダの跡

520

クロソウスキーの跡

551

ニーチエ、ふたたび

564

裏テロリズム——草むしりのプロセス

581

4 グラムシからディイツクへの「トラスフォルミズモ」、
あるいは、日常生活のスペクタクルとしてのテクノカルチャー

導線

644

トラスフォルミズモ

675

テクノカルチャー／日常生活

684

エピローグ

707

ニーチエはもうたくさん

708

トイレはニーチエでいっぱいだった

709

ニーチエは休眠中

710

「カブート・モルトウム」、あるいは、身体／屍体の産業家

711

マオⅢ

712

みずからの死者たちを埋葬する死者たちについて

714

ニーチエ最後のメッセージ

716

結びのひと言

717

注

718

訳者あとがき

884

翻訳についての注記

一、本書はつやの著書の全訳である。Geoff Wain, *Nietzsche's Corpse: Aesthetics, Politics, Prophecy, or, the Spectacular Technoculture of Everyday Life*, Duke University Press, 1996.

一、翻訳上の約束事は、通常の邦訳に倣う。原則として、「」は原著者による補足、「」は翻訳者による補足または注記を表わす。

一、原注のうち、1／*^{29bis}だけは、なにかの事情で本文中の脚注とおれいでいたものを、巻末注に移した。翻訳者による補注には原注番号に付した*と区別して▽を付した。

一、引用の翻訳はすべて、本書に引用された英語原文または英訳にもとづく拙訳である。引用文献のうち、邦訳のある場合は、気づいた範囲で、邦訳の参照ページを、また必要と思われた場合は、適宜、邦訳の引用を挙げた。邦訳の該当ページが明確に特定できない場合は、参考までにそれらしき箇所を指示した。邦訳文献からの引用には、用語や概念に説明的な文脈を戻してやるという意味合いのほか、本書の技法「ペスティーン」を訳注に代用するという意味合いもある。引用は他者の声のひき込みであるにもかかわらず、拙訳であるため、翻訳者の声域に閉じ込められてしまふからだ。なお、いくつの人名や書名については、本書と邦訳引用文献とのあいだで表記上のズレが生じているが、そのままとしておく。

一、ニーチェからの引用については、本書の方法論である「事実との一致を本質としない文献学」「行間を読む」文献学にして「戦う文献学」——を考慮し、邦訳のほか、併せてドイツ語原文も挙げた。一、引用中にあらわれる「……」は、「中断符」として用いられているのか、「省略」を意味するのか、必ずしも判然としない。この区別は、本書にいう「文献学」にとって、看過できない価値をもつはずであるが、とくに指示がない場合は、原則として、「省略」の記号として扱い、「……」を「(….)」でさ

し替えた。

一、あらかじめ表記上の技術的限界を指摘しておく。

(1) 本書の中心的なキーワード「corps/e」は「身体／屍体」と表記した。この語または概念には、いく大雑把に、つぎのようなイメージをめておいてよいだろう。死者たる「ニーチェ」が、みずから「屍体」(「言語資料体」)から、死者の「意図」を達成すべく生きて活動する、みずからの「身体」(「ニーチェ主義」)をつくり出す。

(2) 英語の「corps」には、いく一般的には「身体」の意味はないようだが(ただし、この意味をもともと欠くわけではない。小学館発行の『ランダムハウス英語大辞典』(第2版)は、「corps」と「corpse」とに共通するいまでは廃れてしまった意味として、「(生死を問はず人間・動物の)体」を挙げてゐる)、「corps/e」を「身体／屍体」としたことを受け、原則として「身体」の一語を対応させた。「corps」にはその語源、一語で「身体」、「屍体」、「言語資料体」を意味するラテン語の「corpus」が埋まつていて、本書はその埋もれた語源的な意味をいわば掘り出して概念化していると思われる(この点を踏まえるなら、「corps/e」を「corpus」の英訳とみなすこともできる)。さらに、ここにいう「身体」は生理学的な意味での「身体」(人体)だけでなく、少なくとも、集団、団体、党派といった社会学的・政治学的な意味での「身体」、さらには軍隊、部隊といった軍事的な意味での「身体」でもあることは念頭に入れていただきたい。文脈によつては、「団体」、「集団」等の含意を込めて「corps」に「集合身体」の語をあてた場合もある。本書にとって「corps」は、概念であるばかりでなく、メタファーであり、アレゴリーであるといつてよいだらう。なお、「corps」と「body」は、訳語上、必ずしも厳格に区別されとはいひない。

(3) 本文にも言及があるとおり、「incorporation」と「embodiment」はいづれも、ドイツ語「Einverleibung」(ニーチェにとってのキーワードのひとつ)の英訳である。訳文が窮屈になるのは承知で、稀な例外を除き、それぞれ「体内化」(これは精神分析の用語である)および「身体化」の訳語を一律にあてた。これに関連する「(in) corporation」の語は「法人」や「会社」(いうなれば、経済的または営利的な「身体」)を指すが、「身体」との関連性をしめすために、「結社身体」とした箇所もある。

二
一
チ
エ
の
身
体
／
屍
体
〔上
巻〕

美学、政治学、予言をめぐって、あるいは、日常生活のスペクタクルとしてのテクノカルチャー

プロローグ

この本は陰に陽に多くのひととの助力にあずかった。だが、その抛つて立つ基本的なポジションについてはだれの関与もない。ふたつの歴史上のできごとのあいだで——一方はいわゆるコミュニケーションの死、これには異議を唱え、他方はニーチェ生誕一百五十周年、これについては祝意に水を差しつつ——書かれた本書は、これらふたつのできごとを連結しようとする。この連結が歴史のうえでも理論のうえでも必要であることをしめすために、ふたつの概念「ニーチェ／主義」および「ニーチェの身体／屍体」を提出してみせる。問われているのは、死んだニーチェ（屍体）およびニーチェの書かれた作品（「死後に残されたニーチェのいわば死骸としての」言語資料体）と、ニーチェの死後も右派と中道派のもとで生き続けてゆくことになったニーチェ主義との関係であり、さらにはなんといっても、左翼主義者からなる身体との関係である。じつにこの集合身体は、顯教性／秘教性を併せもつところの、したがって読みうる／読みえないままにとどまるところのニーチェの思考と書法の、その意図的に隠蔽されたもろもろの次元をとおして気づかぬままにプログラムされ、操作されているからだ。おそらくはもはやとり返しがつかないまでに。

仮説と論争。フリードリヒ・ニーチェは、「保守主義者」でも、「ファシストの祖形」でも、「ナチの祖形」でもない。じつは、到来して間もない似非左翼主義的ファッショもどき－自由主義文化およびテクノカルチャーをプログラムした、革命的なプログラマーなのだ。このプログラムのもとでは、ニーチェのもとも深い影響力は意識下に、皮膚下にとどまつたまま在る。事実であるかに想定されているコミュニケーションの死、概念としていたるところに転がっている「コミュニケーションの死」、よもやだれかひとりの人物が、あるいはなかひとつのことがらがこの死に責めを負うとすれば、そのだれか、そのなにかとは「ニーチェ」という概念であり、ニーチェという男である。じつにニーチェ以外のいったいだれに感謝せよというのか。ニーチェ以外のだれに贈れというのか、謝辞を……あるいは、呪詛を。

この本はユーザーにやさしくはないし、必ずしもマルクス主義サイドに立つていてるわけでもないが、議論と論争を進めてゆくうえで、コミュニケーション理論——とりわけ、レーニン、グラムシ、アルチュセールに発するそれ——をニーチェの身体／屍体

1

ニーチェ、敵対者としての唯一のポジション

概念としてのニーチェ／主義（スピノザ）

概念は、たとえ身体性をまとうとしても、あるいは、さまざま身体のなかに実現されるとても、非身体的ななかである。^{*86}

「ニーチェ／主義」は、たんになんらかの本質を、ではなく、或る関係構造を問題としてさし示すものである。だがこのようないくつもに抗して」——語ることは、こんにち、どうみても、あまりにもすり切れた通貨になり果てている。みいだすべき決定的に重要なことがらは、「ニーチェ／主義」として言及されている関係の、特異な種類である^{*87}。アンリ・ルフェーヴルによつて抽出された鍵となる区別を再利用していうなら、この関係は「二者からなる」のではない。ふたつの対立項——ここでは「ニーチェ」と「ニーチェ主義」——が、いうなれば、たがいを照らし出す照明に沿することで、「暗がりから、または、隠れた状態から抜け出し、それぞれが〔他方をシニフィエとする〕一個のシニフィアンになる」というのではない。ニーチェ／主義における関係のありかたは、むしろ、ルフェーヴルが音楽学の用語を借りて「フォルマント」と名ざすことがらに近い。それは、ふたつの項が「たがいをたがいに不可欠な一部としてふくみ込むそのことによつてたがいを隠蔽する」事態を指す^{*88}。ここで、は、目に本質を置く問題設定——みえる／みえない——を、耳にねざす、探知がより困難でさえある問題設定——聞こえる／聞こえない——へズラすることが暗になされている。こうした視覚から聴覚への移動は、ニーチェのもちろろんの哲学素ともろもろのイデオロギー素が振るう力の全容、および、それら哲学素とイデオロギー素が伝播してゆく空間・時間の複合的なひろがりをつかむのに、どうしても必要になる。ニーチェは終始変わらずヒャルト・ヴァーグナーに魅せられた。そこにはたらく魅力は音楽学にいう意味での「形成音」〔特有の音色を音声にあたえる周波数帯域〕に大きくかかわっている。さらにまたルフェーヴルは、こう示唆する。フォルマントの性質をおびたさまざまな関係性を問うには、それら関係性の所在を経験にもとづいて特定するだけでは、あるいはぎやくに、それら関係性を抽象的に理論化するだけでは、不じゅうぶんである。むしろ、問い合わせのようすに推し進める必要がある。「高度に決定された任意の状況のもとで任意の関係性が顕在化しない今まであるとき、その関係性はどこに伏在しているのか。その関係性はどのように顕在化の契機を待ちわびているのか。その関係性は、なんらかの作用が現実化させてくれるまで、いかなる状態で在ることをしているのか」(p.401)。たがいを「不可欠な一部としてふくみ込む」こ

(...) 迫害が文学におよぼす影響は、まさに、書くうえでの或る特異な技巧を発達させる。行間に書くと、いかにかたでわれわれが思ひえがく技巧である。このいい回しは、あきらかに隠喩である。この隠喩の意味を隠喩でないことばづかいで表現しようとすれば、必ずや、或る未知の土地の発見につながるだろう。いまだ踏査されないまま、じつにさまざまひろがりをかかえている原野の……。*

なにごとについてであれ、明白なことからや表面的なことがらを軽視されること、さもなくば、あなどらせることほど、理解されてしまうことにたいする確実な防禦はない。ものごとの表面に、ものごとの表面にのみ、ねざす問題こそが、ものごとの核心なのである。*

議論のゆくえを決定する鍵は、ニーチェが明確に使い分けた頑教—秘教の区別をいくつかの視角から、なかでもニーチェが政治学上いだいた工程表^{アッシュンダ}を視点にして、つかむことにある。だがそのさい、とりわけ肝腎なことは、つぎの点を——議論の過程でその都度、くり返すことができないので——肝に銘じておくことである。ニーチェの秘教主義のもつとも意味深長な座相^{アスペクト}〔占星術で運勢を支配する星座の配置をいう〕は、内容、なにのレベルではなく、むしろ、形式と目的、いかにとなぜのレベルで生じる。ニーチエには、みずからの意図を隠すべきもつともな理由、論理の要請があつた。確かにニーチエはおのれの選良思想にねざす意見の多くを封印することはしなかつた。ニーチエがしたのは、そうした意見のうちの特定のいくつか、もつとも過激な性質のものを封印することだった。しかも、はるかに重要なことだが、みずからの書法をもつていかにしてそれら意見を実行に移すつもりでいるのか、いかにしてみずからの身体／屍体に生命力を吹き込む／吹き込み直すつもりでいるのか、それを封印したのだった。ニーチエじしんの手でおおやけにされたにせよ、されなかつたにせよ、選良思想についてニーチエが書きつけたあれこれの言及を左派はおそらくそれなりに読んできだし、また読もうと思えば読めたはずなのに、ほとんどの場合、それ

身体／屍体

ハム——すべては……すべては……すべては、なんだ？（乱暴に。）すべてはなんだ？

クロウヴ——なにがすべてか、だつて？ ひとこと。あんたが知りたがっているもの？ ちょっと、待て。（クロウヴは望遠鏡をそとにむける、みる、望遠鏡を下げる、ハムのほうを振り返る。）骸^{むくら}と化したもの。¹⁷³

（…）死人は

ひとが信じているほどには、けつして死んでいない。¹⁷⁴

もともとそこにあつたなにごとかが、そのなにごとかからのちに派生したものとともに生き延びていると、そうみなす権利が、しかしあれわれにあるか。疑うべくもなく、ある。¹⁷⁵

屍体／言語資料体／身体という結合^{ネクサス}がなりたつのは、ニーチェ／主義の場合にかぎられない。この結合は、知性の、そして——およぶ範囲はいくらか狭まるが——社会の、その歴史全体を動かす主要な動力として、一般になりたつ。いいかえれば、一個の「身体」（たとえば、或る原理なり／指導者）なりを信奉するひとびと。ここにいう原理や／指導者）が、哲学や／哲学者）、政治や／政治家）、芸術や／芸術家）、そのほか、そうしたたぐいのなにを指すのであれ）が存在するということは、死というものが存在すること、そのおなじ原理や／指導者）が「屍体」として存在することを、前提にしている。これには、ふたつの基本的にして関連し合う理由がある。まず、屍体が——間歇的であれ、持続的であれ——呼び戻されるのは、人間の——それどころか地球という惑星の——生命が手のほどこしようのない有限性に服していることを、身体に思い起こさせるためである。物質性にねざすこの生命は——ときにはぎやくにみえることもあるが——事実に即するかぎり、究極において形而上学に

ユートピック——ニーチェ対フロイト対マルクス

「自由」が君臨するなら、思考も諸觀念も、もはや矛盾のあるがゆえに必然的に闘争もあるような領域を生地とすることはできなくなる。この現在にあっては、哲学者——日常行為の哲学者——がなしうるのは、いま述べた一般性を言明することのみ、その先に進むことはできない。いま在る矛盾の現場から逃れることはできないからだ。矛盾のない世界を一般性のレベル以外で言明するなら、哲学者はすかさずひとつユートピアをこしらえることにしかならない。ただし、ユートピアが哲学上の価値をもちえないといつているのではない。なぜなら、ユートピアは政治学上の価値をもつておらず、あらゆる政治学は或る種の暗黙の哲学であるのだから。たとえそれが、脈絡なく粗雑にスケッチされた哲学であるとしても。³⁰⁴

第一次世界大戦まえから、ニーチェは、「マルクス＝ニーチェ＝フロイト結合」とでも呼べることがらにかかわって読まれ、議論されてきた。ニーチェはマルクス、フロイトといかかる関係にあつたのか、あるいはむしろ、あつたと推定されるのか、この問い合わせをめぐって、あまたの思弁が費やされてきた。ニーチェがマルクス、フロイト両名の印刷された名前とそれ違つたことなら、じつさいにあつた。ただし、ほとんど通りすがりだつた。マルクスの仕事については、原典に直接あたつて得た知識はまったくもち合わせていなかつたし、フロイトの仕事は、いうまでもなく、まだはじまつたばかりだつた。しかし、結合が緒についたばかりのころでさえ、ニーチェは、主導権を制したこの三頭制の、最有力メンバーハと成長しつつあつた。ポスト現代の思考にとって、火急の——火急といわないなら、少なくともくすぶり続けてはいる——問いとはこうだ。マルクスだけではなく、フロイトさえ、いよいよ暗がりのなかに溶暗してゆこうとしているいま、あるいは、ニーチェとくらべ、ふたりのとり扱いに批判が勝つていて、ニーチェには、これからも従来どおりの特權的な地位があたえられ続けてゆくのか。ここでたいせつなのは、われわれの時代におけるユートピア思想のもつとも偉大な批判者にして、かつ、そのもつとも偉大な生産者であるこの三人の「思想の首領たち」の、それぞれの特色をしめす作業形態のあいだに、いくつか明確な区別をつけてみる

2

解釈を超えるチャンネリング

左派ニーチェもどき、右派ニーチェ主義者

おー、研ぎ澄まされた警戒心

甘美な失望

生ぬるい戦い！＊⁷⁰

みよ ここに映るあなたがたのすがたを

おー 騒慢と愚かさにみちた時代

ふたたび眠りから覚めた思想がなん年もかけてわれわれのために
きわやかに彫琢してくれた道を 捨て去つてきたひとびと――

うしろによろめきながら

あなたがたの後退を 一步前進と高らかに吹聴してみせるひとびと＊⁷¹

かのひとびとはマキヤヴェッリの思考がもつ悪魔じみた性格をみない。なぜなら、じ
しんがマキヤヴェリに発する伝統の相続人であるからだ。なぜなら、当のひとびと、
あるいは、そのひとびとを教えた先生の、いまでは忘れ去られてしまつたそのまた先
生たちが、マキヤヴェッリによつてすでに堕落させられてきたからだ。＊⁷²

ドイツの批判主義は、まさに最近の努力にいたるまで、一度として哲学の領域から離
れることがなかつた。この批判主義はみずからが拠つて立つ哲学上の一般前提をけつ
して吟味することをしないが、当の批判主義が提起するすべての問題は、じつは特定
の一哲学体系、ヘーゲル体系にねざしている。この批判主義が提出する答えのなかだ
けでなく、それが立てる問い合わせにさえ、ひとつの欺瞞があつた。このようにして

「ニーチェ教」現象はすでに分析されたことがある——早くも一八九七年に^{*5}。当時すでに左翼主義からするニーチェ流用は既成事実化していたが、この事實をまえにして、最初の重要な社会学者といつてほぼまちがいないフェルディナント・テニエス（一八五五—一九三六年）は、こうきつぱりいってのけた。成熟期ニーチェの思考は——テニエスが生涯にわたり惜しみない賞讃を贈り続けたのは、ニーチェの処女作『悲劇の誕生』であった——、みかけとはまつたく裏腹に、「よそおわれた解放志向」にほかならない。世紀が移つても、この洞察は一度たりとじゅうぶんな展開をみることがなかつた。それどころか、右派ニーチェ主義者たちは「うしろによろめきながら、みずから後退を一步前進と高らかに吹聴して」きたのである。しかも、左翼主義サイドからニーチェにたいしてなされる洞察力鋭い批判というものが仮にあるとしても、そうした批判でさえ、けつきよくは、「生ぬるい」ばかりの戦いへの、奉仕に終始する。マキヤヴェッリの相続人でありながらそれに気づかないひとびとも似て、左派ニーチェもどきは右派ニーチェ主義者以上に、ニーチェの思想がもつ性格をみない。左派ニーチェもどきじしんがニーチェの堕落した生徒だからである。すなわち、ニーチェの生徒の、そのまた生徒であるからだ^{*6}。要するに、マルクスとエンゲルスに倣つていれば、われわれにとつての「ヘーゲル／主義」とは、ニーチェ／主義のことなのだ。われわれにとつての問題化の仕組みとは。

巨人たちの肩に乗つかつてゐるかぎり
ぼくの体は凍えたままだ。^{*7}

テニエスの主張は、原点として、いまもつて正しさを失っていない。ブルジョワ知識人の権力は、エリート主義と搾取とをして、ヘーゲルに寄りかかっているがゆえに、これら現代の批判家たちのだれひとりとして、ヘーゲル体系にたいする筋のとおつた批判をくわだてることすらしてこなかつた。それでいてしかし、だれもがそれぞれにヘーゲルを超えて進んできたと、どれほど公言してはばかりないとか。こうした批判家がヘーゲルに仕掛ける論争、また、たがいに仕掛け合う論争がなすことといつて、つまのことに尽くる——だれもがヘーゲル体系の一側面をとり出し、その一側面を、体系全体にたいして、またほかのひとびとがとり出してきたあれこれの側面にたいして対抗させてみせるだけの話だ。^{*8}

バタイユ（〈チャンネル3〉）からニーチェ（〈チャンネル4〉）へ

（…）しかしあたしが歴史を所有しているあいだ、歴史もわたしを所有している。わたしは歴史によつて照明されているのだから。

だが、その光の使いみちとはなにか。

わたしは個人というものについて語つてゐるのではない……。＊¹⁶³

バタイユについていえば、じぶんのことばを超えたといふや、ときにはじぶんのことばから離れたところで、共同体そのものと、ことばを交わしている。＊¹⁶⁴

ニーチェは解釈を超えていた。「解釈」が歴史に、任意の人物のおよぼす歴史的かつ個人的な強い影響力に、むすびついているかぎり、ニーチェ／主義は「解釈」から巧妙に逃れてゆく。なぜなら、ニーチェはみずから身体／屍体を、ひとつ歴史横断的な現象となるよう、つまりは、時間と交差しても、変化への耐性を——階級関係やそのほかの関係、階級闘争やそのほかの闘争がどう組織されるかにかかわらず——ほぼ一定に保つたまま、時間をいわば遊牧民のようにとおり抜けてゆく現象として、設計したからである。「解釈」、いまも一般に理解され、一般におこなわれているそれ、かつてニーチェをめぐり、ジョルジュ・バタイユの手でポストモダン思想の「解釈共同体」用に定義されたそれは、歴史に拘束されていようがいまいが、そのままでニーチェの秘教性記号論をつかむのにじゅうぶんではない。ニーチェは、みつつある一般的な解釈様式を超えたところに、或る種の予言にも似た第四の「選択可能性」をもたらしたところの、ほぼまちがいなく史上最大の創造者・生産者であつた。既存の一般的な解釈様式のみつづは、単独で存在するか、あるいは、意識によつて接近可能な相互のあいだの「弁証法」として存在する。すなわち、（1）任意の作者なりテキストの「真意」への、ほぼ全幅の信頼をともなう帰依、（2）「現在への応用可能性」を視野に入れて多かれ少なかれ故意になされる任意のテキストの流用、（3）以上ふたつの様式の諸要素を組み合わせ、それらふたつの様式を調停しようとする、中間的な立場。ニーチェじしんのいう「共同体」の語義をつかめるかどうかは、ニーチェが解釈を超えてゆく、その超えた、その道すじに迫れるかどうかに懸かる。

〔注〕 1 リーチュ、敵対者としての唯1のギバム

*¹ Georges Bataille, *The Accursed Share: An Essay on General Economy*, vols. 2: *The History of Eroticism* [1950-1951] and 3: *Sovereignty* [1950-1954], trans. Robert Hurley (New York: Zone Books, 1991), 373 (*Souverainity*). 訳文変更。La part maudite, *Œuvres complètes*, ed. Denis Hollier et al. (Paris: Gallimard, 1970-1988), 8:405. “La position de Nietzsche est la seule en dehors du communisme.” リアルズムに単刀直入に斬り込む一文。だが、バタイユは必ずしも社を補う、事實上、心から心の一步退却をしめた。

△ショルジュー・バタイユ『呪高性』、湯浅博雄、中地義和、酒井建（訳）、人文書院、一九九〇年、一六五%一%。
同、三六〇～三六一%一%（一六五%一%）の「リーチュ」の立場は、共産主義の外に位置するただ一つの立場であるに付された注）――「当然ながら、伝統的なややむの立場は《乗り越えられて（廃れて）》しまった。」のよくな言い方をするといおそれなく单纯化するに至るであろうが、じらした物の見方に関連させて本書を理解するにはほとんど意味がないであろう。アルジョワ的な立場についてはこれ以上語らないでね。しかし、おそらく、一個のヘーゲル的立場というものは可能であろう。それは、必ずしも共産主義的立場ではないが、私がこの三部作第三巻の第一部で行なった共産主義解釈に合致するような立場である。この立場が主張するのは次のようないいである――「この世界の共存は可能であり、両者の相違は緩和されるであろう、人類としての一体性が存在するのだから。しかし、これは1個の立場ではない。それは、今やおよそあらゆる立場といふものが無用である」といふ意味してふる。

*² Richard Rorty, “Introduction: Pragmatism and Post-Nietzschean Philosophy”, in *Philosophical Papers*, vol. 2: *Essays on Heidegger and Others* (Cambridge: Cambridge University Press, 1991), pp. 1-6.

*³ Fredric Jameson, *The Geopolitical Aesthetic: Cinema and Space in the World System* (Bloomington and Indianapolis: Indiana University Press and London: BFI, 1992), pp. 4-5.

*⁴ Ibid., p. 31.

*⁵ Ibid., p. 82.

*⁶ Slavoj Žižek, *Tarrying with the Negative: Kant, Hegel, and the Critique of Ideology* (Durham: Duke University Press, 1993), p. 218.

△スラヴォイ・ジジック『暫留するための時間——カント、ヘーゲル、太田洋平批評』、酒井隆史、田崎英明（訳）、太田出版、一九九八年、三四一%一%。

＊

Antonio Negri, *The Savage Anomaly: The Power of Spinoza's Metaphysics and Politics* [1981], trans. Michael Hardt (Minneapolis and Oxford: University of Minnesota Press, 1991). ネグリに対する抗議へ、彼の「...」の視点からネグリのスローガンを翻訳解にバラハスを行はれ、その重要なスローガンを論議参照。Étienne Balibar, "Spinoza, the Anti-Orwell: The Fear of the Masses" [1985], in *Masses, Classes, Ideas: Studies on Politics and Philosophy Before and After Marx*, trans. James Swenson (New York and London: Routledge, 1994), pp. 3-37. エティエンヌ・バルバールは、スコットランドからのアプローチを共有してはいるものの、バリバールは、スピノザが思ひえがく「multitudo」[群衆・大衆・民衆]に即し、解放につながる価値を付与することについて、ネグリよりも慎重であり、「multitudo」に代えて、むしろ、「群衆のおそれ」をめぐるスピノザの分析が「体験」にむかしてくる。その分析が「アボリアに逢着する」構造をもつことを強調する。そのもと、「群衆の([multitudines])」というラテン語の属格がもつ二重の意味を隠喩として用いる。すなわち、権力にたいして群衆が「だくおそれ」と、権力がいたく群衆べの、おそれである。このような二重の意味での「群衆のおそれ」について、スピノザそのひとば、それをプラスともマイナスともみるラジカルで生産的な態度をつらぬいた。ネグリとバリバールの相違の一端は、スピノザが頑教的/秘教的な書法を採用したのだと仮定すれば説明がつくし、コムニズムからする分析が頑教性/秘教性という問題領域に踏み込もうとしてしまはず、本質的な及び腰をもら出すことによっても説明がつく。

△アントニオ・ネグリ『野生のアノマリー——スピノザにおける力能と権力』、杉村昌昭・信友建志(訳)、作品社、1100八年。
 △エチエンヌ・バリバール『スピノザ・大衆の恐怖』、水島一憲(訳)、『現代思想』一九七八年十月号、青土社、一五二一～一七一ページ所収(邦訳された)の簡易版の論文では、バリバールはネグリへの言及などを割愛している。同、五三二ページ。
 △Balibar, "Spinoza, the Anti-Orwell", p. 23——「構成」というスピノザの概念は、それが群衆の力の展開を指しているかぎりは、媒介という観念を入れるしかなる余地も許さないとするネグリの議論は、わたしがみると、この点で誤っている。確かにスピノザは、主権を現実にせよ、想像上にせよ創設すべくもや出される契約論型の法的媒介に疑義を呈する。しかし、それは、『政治論』において、制度的媒介についての分析をよりよく展開するためなのである。

＊

たゞ、この関係の深度をめぐらせる、臨機圓固せよが法廷外で審議のやうなもじやね。判定にかかる対照的な視点には、たゞ、この1冊の専門研究を参照。Robert Stel, *Het hermetisch universum: Nietzsche's verhouding tot Spinoza en de moderne ontologie* [1987] (Delft: Uitgeverij Eburon, 1989); and R. Henrad, *Nietzsche en Spinoza: Vriende verwant* [1987] (Delft: Uitgeverij Eburon, 1989). 11—12月刊「...」の関係をめぐらる範囲にわたって洗練したカガハクな研究は、あらかじめ「...」の研究。

二
一
チ
エ
の
身
体
／
屍
体
〔下
巻〕

美学、政治学、予言をめぐって、あるいは、日常生活のスペクタクルとしてのテクノカルチャー

過去の記号をいちめんに書き尽くし、あまつさえ、それら記号のうえに新しい記号を塗りたくるなら。さて、諸君は、あらゆる記号解読者から、まんまとわが身を隠しおせたのだ！＊¹

だが、摸像（シミュラクル）は記号によつて運ばれるゲームであるというだけではない。それは必ず社会関係と社会権力をともないもする。＊²

本を出すにあたつて、どうすれば、読者の大多数にたいして沈黙を守つたまま少数者に語りかけるなどという、奇蹟を演じることができるのか。＊³

ぼくらは叫んでいる、傷つけている

けれどぼくらには、その理由がよくわからない……：

ほとんど……ほとんどきみたちはこういわんばかり、暗号さえ破れば、こいつの意味がついには全部まるわかりになるとでも、それができたら……きみたちはすべての苦悩と苦痛を下取りに出せるとでも思つてゐるのかい。＊⁴

われわれはいまや——ようやくにしてはじめて——ニー・チエのもとにやつてくる。この「チャンネル4」到着までの道のりを指して、のちの議論のための「脱線」というのが正しいのかかもしれない。ニー・チエが書きつける行のあいだ、語のあいだにニーチエを読み取ること、たんに視線をむけるのではなく、むしろ、みぬくことをこころみることは、けつしてニー・チエ／主義の「正しい」流れ、あるいは、「主流」であつたためしがないのである。ニー・チエ／主義ほんらいの性質が隠蔽されていることを

デリダの跡——以後

ジャック・デリダがとり組む凝縮されたニーチェ読解と、「解釈」にむける集中攻撃は、「理論」とニーチェ／主義の双方にとって、現在、どの「チャンネル」が利用可能であるかを、よくさし示している。ついては、ニーチェを論じたデリダの有名な単行本『拍車——ニーチェの文体』（一九七二年、一九七八年¹²⁹）に劣らぬ重要性をもつのは、それよりは知られるところの少ない『耳伝——ニーチェの教えと固有名の政治学』（一九七六年、一九八二年¹³⁰）である。というのは、この後者のテキストは、ニーチェの政治思想とニーチェの遺産を明確に噛み合わせることをこころみているからである。いずれのテキストも、語や語法のニュアンスにデリダが払う一分の隙もない用心深さの手本を提供していて、いずれも、概念、方法論、イデオロギーにかかるいくつかの問題を共有している。これらの問題はニーチェの核心へ接近させてくれはするが、その接近は、デリダやデリダの血を分けた読み手が考えているほどには徹底していない。血を分けたというのは、ここにいうデリダの読み手の一部は、もっぱらデリダという媒介をとおしてのみ、ひとつの批判的な、哲学的に装備されたニーチェ読解にたどり着くという意味である。ふたつのテキストに共有されている問題群は、どちらかといえば、『拍車』のほうに鮮明にみてとれるから、まずは『拍車』からはじめて、そののち『耳伝』に戻るという順序をとる必要がある。しかも、『拍車』——好／悪入り交じった風評にあらずされている、というのも、そこではじめてデリダは「女という問い」を話題にしている、あるいは、その問いに風穴をうがとうとしているので——は、なにをもってニーチェにたいするデリダのポジションとすべきか、のみならず、なにをもつてポスト構造主義の方法論がもつおおよそその全体像とすべきかを、じつにくっきりと記述してみせた。

『拍車』にかかる五つの基本問題をリストアップしておく必要がある。第一の問題。デリダは「ニーチェ」を——あるいは、デリダの用語でいえば、「女」と「文体（style）」（尖筆（stylus）、拍車または蹴爪（spur）、足跡（spoor）、男根（phallus）〔去勢〕との関係で語られる突起物）、痕跡（trace）、差延（différance）——との連結、また、「ヴェール（veiling）」との連結、やむに「ヴェール」と航海（sailing）——との連結（¹³¹）の連結は、男性名詞なら「ヴェール」を、女性名詞なら「帆」を意味するフランス語の「le/la voile」の同音異義性を利用することにもとづくを——、もっぱら異性愛にのみかかわる問題領域にアブリオリに書き込んでみせる△¹³⁰〔誤注〕。しかし、ニーチェが、十中八九、バイセクシュアルまたはゲイであったとするなら、この書き込みは複雑なものに、それどころか無用なものにさえなるだろう。

クロソウスキーの跡——以後

ニーチェは、フェルディナン・ド・ソシュールに先駆けて、記号論の理論および実践を発展させた。構造主義とポスト構造主義は、そのソシュールを肯定するにせよ、批判するにせよ、ソシュールのもとから展開を遂げた。しかし、バタイユ以後、ニーチェの記号実践 (semiotic) の跡を追う——以後をとらえる、もつとも示唆に富むこころみを手がけたのは、ポスト構造主義者たちではなく、ピエール・クロソウスキーであり、そのクロソウスキーがポスト構造主義者たちに影響をあたえたのである。一九三〇年代後期、すでにクロソウスキーは、ニーチェの形成母胎^{トロックス}の内部になん隻もの探査船を送り込もうとしていた——それら探査船からもたらされた情報は、いまだ満足のゆく解析にかけられたことがなく、吟味は不徹底のまま据えおかれている。探査船じたいがじゅうぶん遠くまで航行しなかつたということはあれ、やはり不徹底の理由の一端は、ニーチェが探査船に潜伏したまま同乗しているせいである。リドリー・スコット監督の一九七九年の映画『エイリアン』のことを思い浮かべてみるとよい、「この映画は宇宙探査船に潜伏する凶暴な地球外生物の恐怖を題材にしていて」。クロソウスキーは、遅くとも一九五七年には、試論「ニーチェ、多神教、パロディ」で、ニーチェの秘教性記号論に類するなにごとかの存在をそれとなく臭わせていた^{*}。クロソウスキーの中心となる考え方たのひとつは、ニーチェの「パロディ」が「多神教」の問題にむすびついて、しかも「パロディ」と「多神教」のいずれもが、「命名」やその他のタイプの「起源」——オルペウス教^(ディオニュソス神話の再解釈をふくむ、古代ギリシアの宗教)、キリスト教アダム派^{(二)四世紀の北アフリカに存在した初期キリスト教集団}、言語遂行論それそれににおける言語行為のどれであるにせよ——の問題にむすびついている。このほとんど神学的ともいえる問題領域は、実存主義を参照すれば、明確化することができる。

ゼーレン・キルケゴールが指摘したように、多数の名前をもつことは、偽名と、外部および内部いづれからも課される検閲の諸形態とに、密接にかかわっている。キルケゴールは、多数の名前のうちのどの名前をもつて書くかという選択にかかわる責任に——「アイロニー」にもどづいてか、「実存」にもどづいてか——正面からむき合おうとした。「法律上の意味と文学上の意味で、責任はわたしのものである」とキルケゴールは書く、「むしろ、弁証法にしたがうなら容易に理解されるよう、現実の世界に聞こえるよう著作物の声をひき起こしたのはこのわたしであり、現実の世界が、詩的な意味での現実性をしかももない作者たちにかかわってくることはありえないのであるから、したがって、現実の世界は、終始一貫、法律のうえでも文学

グラムシからディックへの「トラスフルミズモ」、あるいは、日常生活のスペクタクルとしてのテクノカルチャー

トラスフォルミズモ

ニーチェの身体／屍体をつかむのに、左派ニーチェ主義が存在するという、とくにそのことをつかむのに、「trasformismo (transformism)」——変形・転向——は最良の道具である。トラスフォルミズモの基本的な意味は、政治上またはイデオロギー上の特定のポジションがべつのポジションへ、とりわけ〈左〉から〈中道〉、さらに〈右〉へと、歴史的な変形を遂げることをいう。グラムンによって詳論されたように、トラスフォルミズモは、いすれの概念もやはり歴史的な変形にかかわっているという意味で直接の関連性をひとしくもつ他の諸概念に、関係づけられている。たとえば、「受動的革命」または「復古としての革命」のふたつのありかたにほかならない自由主義とファシズムの親密な関係。支配集団と被支配集団との結節点として知識人が——学問研究の訓練と社会を方向づける機能とのふたつをとおして——果たす鍵となる役割。さらには、高級哲学は日常生活と常識——常識の全体がそのまま良識であるわけではまったくない——の名で記名されるとするテーマ。このテーマはまたぎやくに、日常生活と常識が、哲学の名で、あるいは、グラムンが期待したようによみニズムの名で、記名される道をさし示すテーマもある。じつさい、グラムンはヨミニズムを「日常行為の哲学」^{グラムン}と呼んだ。

トラスフォルミズモは、それを牽引する或る保守派歴史家によつて、こう簡潔に定義されてきた。「自由主義者を右側へ逃亡させること」、「口先是左、おこないは右」の政府のこと^{*84}。あるいは、かつて人口に膾炙したレジス・ドゥブレ「フランスの政治的著作家。チエ・ゲバラとともに南米のゲリラに参加。ボリビアで逮捕され、禁固三十年の刑を宣告されるが、一九七〇年に釈放された」のウイットの利いた皮肉にいふように、「革命は反革命を革命化する」。トラスフォルミズタ——変形・転向を地でゆくひと——は、速変わりを十八番とする役者である。トラスフォルミズモが原因／結果として寄与する状況のひとつを挙げれば、こうだ。ブルジョワ政党、たとえば合衆国のいまの民主党と共和党は、経済上の優勢な利益という单一の無害な核を中心いて離合集散をくり返す社会集団を代表しようとするのみで、もつと基本的な要素、階級間の差異とか対立を代表しない。そういう政党は資本主義に迎合する不活発なイデオロギーを共有していることが一般的だが、表向きは、活発な「論争」や「反論」の応酬を演じてみせ、こうして資本主義にたいするもろもろのラジカルな代案の抑え込みと排除をおこなう。そこには、みずから暴力によって「テロリスト」を現実に生み出しておきながら、つづいてすぐさまそれに「根源悪」の烙印を押してみせることもふくまれる。

論文「自由主義民主制の暴力」(一九九三年)でジジエクは、新しいタイプの叛乱——たとえば、東南アジアのクメール・

テクノカルチャー／日常生活

● 684

読者が美学、政治学、予言の連結のありかたを問題としてつかむべく言語資料体としてのニーチェの屍体を参照しようとするとき、とくにこころがけなくてならないのは、読者（われわれ）じしんがぞくする「国民・民衆」文化と、それがかかえるニーチェ志向とを知らずにいるという傾向に抵抗することである。高級哲学は、こんにち、マス・カルチャーまたはジャンク・カルチャーへと脱皮しようとしている。それどころか、そのようななかたちでのみ存在しようと躍起になつてゐさえする。他方、かく在る現状を研究対象とすると称する流行の「学問分野」、カルチュラル・スタディーズはといえば、その意図に反する逆効果を生むにとどまることになるだろう。いまのところ、カルチュラル・スタディーズは「ジャンク・カルチャーから哲学を引き算したもの」と定義できるにとどまつてゐるのだから。正確にいゝ直せば、みずから手で正当な権利を付与しなくてはとカルチュラル・スタディーズが考へている哲学そのものが、ニーチェ主義に、身体／屍体の一部に、とどまつてゐるのだ。かつてシチュアショニスト・アンテルナショナルはよくこう力説したのだ。死んだのは神だけではない——神が男であれ、女であれ、あるいは、それとしかいよいのないものであれ、その神とともに——われわれが従来それと知つてゐた美学と芸術、政治的なものと政治学も死んだのだ。いずれもが日々のありふれた生活のはるか上空に在つて、いずれもがそのありふれた生活を深く目にみえないかたちでかたどつていた「高級」と「低級」が。こうした事態を文脈にして、「屍体」という語がシチュアショニストのもとでよみがえる。一九六六年春、ストラスブール大学——当事の偉大な学生叛乱の嚆矢——に出回ったリーフレットのひとつは、[*De la misère en milieu étudiant*]「学生生活の悲惨」と題されていた。リーフレットが掲げるスローガンのひとつ、シチュアショニストのムスタファ・ハヤティの手で執筆されたそれはいう。「芸術が死んだいつの時代にあっても、学生はその屍体のもつとも貪欲な消費者である。」二年後、ソルボンヌ周辺のいくつかの壁にスローガンの、つぎのようないままで、拘束の拒否がどんな積極性をもつかを理解しないまま革命と階級闘争を語るひとびとは、口に屍体をくわえている*9。つい少しまえの一九八八年、もうひとつのアップデイト版があらわれた。「芸術は死んだのだから、（…）警官芸術家に変装させるのはますますたやすくなつていてる*10。」そこにニート、ニーチェをふくめたくもなるだろう。とりわけこんにち、ニート

[注] 3 リーチの秘教性記号論

- * ~ Nietzsche, *Also sprach Zarathustra; KGW 6 / 1:149* [part 2. “On the Land of Education”]. “Vollgeschrieben mit den Zeichen der Vergangenheit, und auch diese Zeichen überpinselt mit neuen Zeichen: also habt ihr euch gut versteckt vor allen Zeichendeutern!”
- ▷ リーチは『スマート・ペトロ』[11月版]——「農夫の記号がござる書が込まれ、またその上に新しい記号が絵筆で書かれたり。」——君たゞまづ身を隠したのや、うふな記号解読者に解説されりがだらー。」
▷ KSA, 4:153.
- * ~ Baudrillard, *Simulations [Simulacra et simulation]*, 1981 [リーチの英訳は *Simulacra and Simulation* 1988年に出でる。Simulation はシマラと似る。], trans. Paul Foss, Paul Patton, and Philip Beitchman (New York: Semiotext[e] Foreign Agents Series, 1983), p. 88. リーチは「記号の政治羅薙術」
<@> — リーチは『羅薙術』[1989]を参考。Lutz Niethammer, in collaboration with Dirk van Laak, *Posthistoire: Has History Come to an End?* [1989], trans. Patrick Camiller [London and New York: Verso, 1992], p. 141.
- ▷ リーチは『象徴交換の死』[1941]、『死の正義』[1942]、『歴史の記号』[1948]、『筑摩書房』[1988]、pp. 22-37; here p. 25.
- * ~ Jane Sberry (with k. d. lang), “Calling All Angels,” *When I Was a Boy*, © 1993 Reprise Records/Time Warner Company, 9-26824-4.
- * ~ Eco, *Semiotics and the Philosophy of Language* [1984] (Bloomington: Indiana University Press, 1986), p. 14.
▷ リーチは『記号論語新解』[1991]、『論』[1991]、『文社』[1991]、『長年』[1971]～[1988]。
- * ~ Raoul Richter, “Friedrich Nietzsche und die Kultur unserer Zeit” [1905], in *Essays*, ed. Lina Richter (Leipzig: Verlag von Felix Meiner, 1913), p. 112.
△ リーチはこの論文の著者でもある。Richter, “Nietzsches Stellung zu Entwicklungslehrre und Rassentheorie” [1906], in *Essays*, pp. 137-177.
△ の論文は、有力な雑誌であった『民主政治人類学』(Politischanthropologisch Monatsschrift)で、人種人類学の重要な機関誌を初出である。ちなみに著者リーチはこの著書を修訂。Richter, *Friedrich Nietzsche, sein Leben und sein Werk* (Leipzig: Dür, 1903) and *Nietzsche-Aufsätze* (Leipzig: Felix Meiner, 1917)。他方、リーチの秘教主義の意義についての秘教主義のテクニカルな立場も、彼の立場にはなかった。リーチは人種決定論者ではあったが、反ユダヤ主義者ではなかった。リーチの立場は文言に依存しない、主張したのである。未来の〈超人〉は、ハイム人とスラウ人の特徴だけな

「ニーダヤ人の特徴をゆっくり込むようにして育成されなくてはならぬ。」³⁵これを参照。“Nietzsches Stellung zu Entwicklungslehre und Rassentheorie”, pp. 172-174.

* ニーチェの没年にあたる一九〇〇年以前、すでに民族（völkisch）運動のメンバーたちは——たゞした根拠もなき——「」の主張していた。

ニイシ民族（Volk）にたゞするニーチェの攻撃は、ニーチェの眞意として理解されぬくやぢはなく、基督教の継承戦略の継に沿つて理解されるべきである。たゞよせ、³⁶ いわを参照。Wilhelm Schaner, “Friedrich Nietzsche”, *Der Volksleben* 4:35 (September 2, 1900), 273. いわに引用。Aschheim, *The Nietzsche Legacy in Germany*, p. 120. 「」の主張は、みちがへおひみだへ、血口への都合わせを本質とするが、しかしその本質には、ニーチェの顯教・秘教という問題領域の構造を意図せずしてみぬいてしまへ、より深いまなわしが隠れていた。第一次世界大戦前夜、右翼（ドイツ青年運動）（German Youth Movement）のリーダーたちは、ニーチェに接近する方法を三段階方式の弁証法的プロセスとしてみいだしていた。(1) ニーチェは外部からの徵募された新参のメンバーには読ませるべきではない。なぜならニーチェのメッセージは、表面上では、あまりに矛盾にみちむかへ。 (2) ニーチェは、ヨーロッパの文化と政治生活とがおちいつている曠かわしい惨状といへやるに戰つたたゞひとりの重要な思想家であり、そのような思想家として、ニーチェは、その秘教的なメッセージのもつ深みにおいて、古参のメンバーの手で研究されなくてはならない。そのうえではじめて、(3) ニーチェの生と作品は弁証法に則つて否定されることがあるだらう。なぜだらう、ニーチェが剣を投げ捨てたその場所で、りんとうは「青年運動」そのものが剣を拾い上げるにとなるだらうから。そしてそのふれは、時代の全体がニーチェの精神を体内化し終えて「」だらうから。たゞよせ、³⁷ いわを参照。Walter Hammer, *Nietzsche als Erzähler* (Leipzig: Verlag Hugo Vollath, 1914). ハマーはまだ、菜食主義³⁸のねむる「生活改善運動」（Life-Reform Movement）の重要な理論家であり、およよそ一九〇九年を皮切りに、「」の両面はわたつて、ニーチェにひゞく健筆を振るいた。

* ~ Nietzsche, “NF, Mai-Juli 1885”; KGW 73:263.

△「」の「遺された断想」「一八八五年五月—七月」、白水社版二—八、三〇六ページ〔三五〔七一一〕〕——「注意。多くの超人が生まれなくにはならぬ。すべての善は彼と同等の者たちの間でのみ発展するのだ。神と「」のは「」に悪魔である。支配的民族。『大地の支配者たる』」に譲る。

▷ KSA, 11:541 ——「NB. Es muß viele Übermenschen geben: alle Güte entwickelt sich nur unter seines Gleichen. Ein Gott wäre immer ein Teufel! Eine herrschende Rasse. Zu 'die Herrn der Erde'!」

* Friedrich Wilhelm Joseph Schelling, *Philosophische Briefe über Dogmatismus und Kritizismus* [1795], *Sämtliche Werke*, ed. Karl Friedrich August Schelling (Stuttgart and Augsburg: J. G. Cotta'scher Verlag, 1856), 1/1:281-341; here 341. 「」は「」のVerbrechen an der Menschheit, Grundsätze zu verborgen, die allgemein mithilfbar sind. Aber die Natur selbst hat dieser Mithilfbarkeit Grenzen gesetzt; sie hat — für die Würdigen eine Philosophie aufzubewahren, die durch sich selbst zur exoterischen wird, weil sie nicht geheim, nicht nachgeheuchelt, nicht auch von geheimen Feinden und Auspäniern nachgesprochen werden kann — ein Symbol für den Bund freier Geister, an dem sie sich alle erkennen, das sie nicht zu verbirgen brauchen, und da doch,

論理的秘教主義 logical esotericism 464-472 [→ 秘教主義]

わ 行

ワズワース, ウィリアム Wordsworth, William …… 158

- ルカーチ, ジェルジ Lukács, Georg 91, 138, 208, 231, 640, 672-673, 825 n.12
ルクセンブルク, ローザ Luxemburg, Rosa 23, 332 n.239, 713
ルクレティウス Lucretius 108, 193, 586
ルソー, ジャン=ジャック Rousseau, Jean-Jacques 96, 158, 299-300 n.113, 355 n.318, 518,
532, 540, 568, 720 n.9, 731 n.68, 759 n.150
ルナチャルスキ, アナトリー・ワシリエヴィッチ Lunacharsky, Anatoly Vasilyevich 660
ルフェーヴル, アンリ Lefebvre, Henri 44-45
- レヴィ, ベルナール=アンリ Lévy, Bernard-Henri 160
レヴィ=ストロース, クロード Lévi-Strauss, Claude 500, 540
レヴィン, ピーター Levine, Peter 392-394 n.76
レーヴィット, カール Löwith, Karl 561, 806 n.340, 807-808 n.348
レーヴェンシュタイン, アドルフ Levenstein, Adolf 658-661
レーヴェンタル, レオ Löwenthal, Leo 37, 159
レーニン, ヴラジーミル・イリイッチ Lenin, Vladimir Ilyich 23, 51, 76, 84, 144, 149, 168,
178, 187, 194, 265, 277 n.23, 280 n.41, 290-291 n.93, 332 n.239, 349 n.296, 355 n.317,
368-369 n.376, 369 n.378, 375 n.1, 399 n.99, 647-648, 681, 713, 739 n.83, 825 n.12,
855 n.153, 857 n.8
レオパルディ, ジャコモ Leopardi, Giacomo 391 n.71
レスシュ, ロバート・ポール Resch, Robert Paul 291 n.93, 302 n.127, 309 n.139,
748-749 n.116
レッシング, ゴットホルト・エフライム Lessing, Gotthold Ephraim 746 n.111
レトリック(修辞, 修辞学) rhetoric [→ 発語内行為]
レム, スタニスワフ Lem, Stanisław 702, 705, 853-854 n.148
- ローゼン, スタンリー Rosen, Stanley 100, 139-140, 168, 203, 208-210, 225-235, 393 n.76,
465, 576, 593
ローゼンベルク, アルフレート Rosenberg, Alfred 207, 400 n.103, 546, 672
ローティ, リチャード Rorty, Richard 131, 139-140, 159, 203, 210-214, 219-222, 235,
393 n.76, 465, 540, 556, 594, 672
ローブ, ドリ Laub, Dori 616-617
ロールズ, ジョン Rawls, John 393 n.76, 594
ロキシー・ミュージック Roxy Music 257
ロサンゼルス(LA) Los Angeles(LA) 37-38, 43, 266, 287 n.72
ロス, アンドリュー Ross, Andrew 698
ロダン, オーギュスト Rodin, Auguste 112
ロック, ジョン Locke, John 70, 118, 463-464
ロックモア, トム Rockmore, Tom 215, 405 n.122
論争 polemic 95-102, 106-107, 320 n.195, 322 n.204

ユンガー, エルнст Jünger, Ernst 347 n.291
ユング, カール・グスタフ Jung, Carl Gustav 150

欲動の記号学 pulsatile semiology 562-563
予言 prophecy 189-200, 254, 262, 264, 483, 529, 611, 662-663, 684, 701
呼びかけ interpellation 35, 137-138
ヨベル, イルミヤフ Yovel, Yirmiyahu 264-265, 434 n.236

ら 行

ラーシド=ウッディーン=シーナン Rashid al-Dinn Sinan 582
ライバッハ Laibach 214, 222, 401 n.113, 402 n.114
ライヒ, ヴィルヘルム Reich, Wilhelm 164
ライプニッツ, ゴットフリード・ヴィルヘルム Leibniz, Gottfried Wilhelm 48, 69, 567
ラカン, ジャック Lacan, Jacques 90, 106, 147, 149, 189, 195, 243, 304 n.129, 317 n.184,
324-325 n.207, 438 n.247, 558, 571, 584-585, 627, 666
ラクラウ, エルネスト Laclau, Ernest 276 n.19, 277 n.20, 318 n.184, 367 n.370, 393 n.76
ラクー=ラバルト, フィリップ Lacoue-Labarthe, Philippe 301 n.121, 475-477, 561
ラサール, フェルディナント Lassalle, Ferdinand 604, 658
ラビノウ, ポール Rabinow, Paul 159
ラング, k・d lang, k. d. 506
ランケ, レオポルト・フォン Ranke, Leopold von 556
ランゲ, ヘレーネ Lange, Helene 205
ランパート, ローレンス Lampert, Lawrence 57-59

リース, ジェイコブ Riis, Jacob 500
リード, トマス Reid, Thomas 70
リード, ルー Reed, Lou 518, 623
リオタール, ジャン=フランソワ Lyotard, Jean-François 213, 482, 423 n.196, 561, 565-568
リクール, ポール Ricoeur, Paul 156, 160, 252
離体したたましい eunuch of the soul 223-224
リチャーズ, キース Richards, Keith 516
リディ, G・ゴードン Liddy, G. Gordon 633, 656
リヒター, ラウル Richter, Raoul 461
リンギス, アルフォンソ Lingis, Alphonso 616
リンボー, ラッシュ Limbaugh, Rush 656, 672, 740 n.88

ルイス, ウィンダム Lewis, Wyndham 347 n.291
ルーゲ, アルノルト Ruge, Arnold 532

- マルティ, ウルス Marti, Urs 413-414 n.161
マン, トーマス Mann, Thomas 190, 373 n.394, 771 n.189, 830 n.42
マン, ハインリヒ Mann, Heinrich 660, 830-831 n.42
マンデル, エルネスト Mandel, Ernest 41
- ミーコンズ Mekons 20, 23, 184
ミットタッシュ, アルヴィン Mittasch, Alwin 740 n.90, 849 n.129
ミニマックス minimax 662
身ぶり(社会性の~, 音楽性の~) gest(social, musical) 345 n.286, 383 n.42
ミラー, リチャード・W Miller, Richard W. 152, 154
ミル, ジョン・スチュアート Mill, John Stuart 72
- ムッソリーニ, ベニート Mussolini, Benito 207, 274 n.11, 433 n.231, 462, 480-481, 649,
704-705, 825 n.12
ムハンマド(モハメッド) Mohammed 24
- メイソン, ティム Mason, Tim 729 n.60
マイヤー, アーノ Mayer, Arno 615
メーリング, フランツ Mehring, Franz 604, 615, 669-670
メルロ＝ポンティ, モーリス Merleau-Ponty, Maurice 223
- モイ, トリル Moi, Toril 396 n.84
妄想症(パラノイア) paranoia 154, 267-268, 436-437 n.245, 438 n.247, 703, 855 n.151
毛沢東 Mao Tse-Tung 23, 76, 114, 230-231, 332 n.239, 355 n.317, 435 n.237, 676, 712-713
モース, マルセル Mauss, Marcel 255
モーセ Moses 24
黙説法 sigetics 477, 491-492
模像(シミュラークル) simulacrum 554
モリソン, トニ Morrison, Toni 591
問題化の仕組み problematic 109, 331 n.237, 391 n.73, 677
モンタグ, ワレン Montag, Warren 122

や 行

- 野蛮な異例性 savage anomaly 425-426 n.202
野卑な思考 crude thinking 102, 326-327 n.215
- 唯物論的一元論 materialist monism 293 n.98
U2 518

- ボドレッカ, グイード Podrecca, Guido 605
ボドロガ, ヴァレーリィ Podoroga, Valery 132, 223
ホメロス Homer 574
ホラティウス Horace 266
ホルクハイマー, マックス Horkheimer, Max 73, 86, 129-131, 159, 206, 211, 219, 254,
358 n.330, 560, 663
ボルディーガ, アマデーオ Bordiga, Amadeo 198, 825 n.12
ボルヘス, ホルヘ・ルイス Borges, Jorge Luis 549, 652
ホワイト, パトリシア White, Patricia 437 n.245
ホワイト, ヘイデン White, Heyden 406 n.130
ボンギ, ルッジェロ Bonghi, Ruggero 661
本質主義 essentialism 289 n.87

ま 行

- マーカス, グリール Marcus, Greil 693, 275 n.12
マイゼンブルーク, マルヴィーダ・フォン Meysenbug, Malwida von 477, 485, 507, 740 n.86
マイナー文学 minor literature 188, 381-382 n.37
マイネック, フリードリヒ Meinecke, Friedrich 373 n.394
マイモニデス, モーセス Maimonides, Moses 470
マインホフ, ウルリケ Meinhof, Ulrike 30, 95
マキャヴェッリ, ニッコロ Machiavelli, Niccolò 20, 30, 33, 96, 196, 201-202, 496-498,
501-503, 512-513, 577, 614, 668, 739-740 n.86, 743 n.96, 743 n.97
マクルーハン, マーシャル McLuhan, Marshall 179, 185, 376 n.8, 700
マッケイブ, コリン MacCabe, Colin 133-134
マッハ, エルンスト Mach, Ernst 153, 467, 650
マノーニ, オクターヴ Mannoni, Octave 665
マラバル, ホセ=アントニオ Maravall, José-Antonio 263-264
マラルメ, ステファーヌ Mallarmé, Stéphane 548, 844 n.105
マリゲーラ, カルロス Marighela, Carlos 95
マリネットィ, フィリッポ Marinetti, Filippo 347 n.291
マルクーゼ, ヘルベルト Marcuse, Herbert 159, 359 n.330, 521, 531, 849 n.128
マルクス, カール Marx, Karl 22-24, 36, 39, 42, 45, 51, 77, 82-83, 96, 127, 146-166, 168,
194, 202, 207-208, 237, 266, 321 n.197, 332 n.239, 355 n.317, 360 n.333, 362 n.341,
364 n.349, 461, 532-533, 658, 572, 600, 602, 604-607, 611, 641, 648, 658, 665, 670-671,
678, 681, 685, 688, 691, 711, 713, 787 n.263, 803 n.322, 840 n.95, 847 n.115, 848 n.123,
855 n.153
マルケス, ガブリエル・ガルシア Márquez, Gabriel García 653
マルケル, ク里斯 Marker, Chris 21, 183, 653

- ベケット, サミュエル Beckett, Samuel 276 n.13
ヘグモニー(誘導・馴致, 主導権) hegemony 42, 51, 83, 89-90, 107, 118, 138, 152,
193-194, 226, 234, 246, 253, 280 n.41, 420 n.195, 464, 468, 493, 495, 497, 503, 509, 519,
546, 555, 579, 610, 620, 631, 634, 649, 651, 677, 687, 729 n.60, 739 n.83, 766 n.169,
825 n.12, 827 n.23, 839 n.93
- ベッカー, ヴィルヘルム・カール Becker, Wilhelm Carl 203, 399 n.102
ヘッセ, ヘルマン Hesse, Hermann 166
ヘヒト, マリー Hecht, Marie 599
ヘラー, アグネス Heller, Agnes 189
ヘラクレイトス Heraclitus 98-101
ベル, ダニエル Bell, Daniel 41
ベルクソン, アンリ Bergson, Henri 48, 399 n.97, 486
ヘルダーリン, ヨハン・クリスティアン・フリードリヒ Hölderlin, Johann Christian Friedrich
..... 158, 192, 194, 216-217, 375 n.5, 384 n.48, 385 n.49, 404 n.121, 532-535, 578, 687,
826 n.20, 830 n.40
- ベロウ, ソール Bellow, Saul 509
ベンサム, ジェレミー Bentham, Jeremy 433 n.231
ベンジャミン, アンドリュー Benjamin, Andrew 574-575
弁証法 dialectic 348-349 n.296
ベンヤミン, ヴァルター Benjamin, Walter 151, 254, 309 n.139, 348 n.293, 355 n.318,
358-359 n.330, 376 n.8, 573-574, 607, 621-622, 625, 645, 663, 806 n.340, 807 n.341,
808 n.352
- ボイス, ヨーゼフ Beuys, Joseph 112
ボイマー, ゲルトルート Bäumer, Gertrud 205
ボイムラー, アルフレート Baeumler, Alfred 261-262, 546
冒瀆 blasphemy 106, 108, 170
ボエティウス Boethius 491-492
ポー, エドガー・アラン Poe, Edgar Allan 586, 798 n.301
ボードリヤール, ジャン Baudrillard, Jean 106, 163, 168, 180, 329-330 n.229, 365 n.360,
365 n.361, 407 n.134, 554-555, 669, 718 n.2, 728 n.58, 825 n.12, 834 n.65, 840 n.94,
841-842 n.103
ボードレール, シャルル Baudelaire, Charles 607-609, 797 n.296, 798 n.297, 798 n.301
ボールドウィン, ジェイムズ Baldwin, James 61
ホーントロジー(死者の存在論, 懲依する亡靈の存在論) hauntology 27, 275 n.13
ボッビオ, ノルベルト Bobbio, Norberto 285 n.64, 462
ホップズ, トマス Hobbes, Thomas 124-125, 485
ポトラ, ベルナール Pautrat, Bernard 561, 624-628
ポトラッチ potlach 430 n.209

- 不在の原因 absent cause 78, 558 [→ 因果性, 決定因としての不在]
フッサー, エドムント Husserl, Edmund 304 n.129, 478
ブッシュ, クラウディア Bush, Claudia 700
仏陀 Buddha 24, 279 n.29
プラーグ, レミ Brague, Rémi 226
フライ, ノースロップ Frye, Northrop 221
ブラック・フラッグ Black Flag 632
プラトーノフ, アンドレイ Platonov, Andrei 223
プラトノ Plato 24, 30, 45-46, 65, 100, 189, 227, 234, 281-282 n.49, 293-294 n.98,
304 n.129, 306 n.132, 393 n.76, 410 n.140, 463, 473, 557, 567, 574, 622
プランショ, モーリス Blanchot, Maurice 185
フリアーズ, スティーヴン Frears, Stephen 134
フリードリヒ・ヴィルヘルム Friedrich Wilhelm 522, 533
フリードリヒ三世 Friedrich III 114
プルースト, マルセル Proust, Marcel 49, 212
ブルーム, アラン Bloom, Allan 274 n.11, 392 n.76, 671-672, 847 n.121
ブルーム, ハロルド Bloom, Harold 241, 420 n.177
ブルデュー, ピエール Bourdieu, Pierre 52, 297 n.104, 383 n.45
ブルドー, ジャン Bourdeau, Jean 204-206, 395 n.83, 477, 650
プレハーノフ, ゲオルギー Plekhanov, Georgi 233, 604, 615
ブレヒト, ベルトルト Brecht, Bertolt 102, 131, 317 n.184, 326 n.215, 345 n.286,
358 n.326, 380 n.30, 383 n.42, 660
フロイト, ジークムント Freud, Sigmund 48, 58, 106, 146-166, 169, 172, 231, 237-238,
356 n.323, 359 n.330, 360 n.333, 362 n.341, 364 n.349, 437 n.245, 461, 539, 571, 584,
600, 602, 618-619, 726 n.52
プロチノス Plotinus 179
ブロッホ, エルнст Bloch, Ernst 178, 358-359 n.330, 639-640
プロレタリア独裁 dictatorship of the proletariat 290-291 n.93, 312 n.156
プロレプシス(未来の先読み) prolepsis [→ 予言]
フロント・ライン・アセンブリー Front Line Assembly 182
文献学 philology 118-125, 128 [→ 事実との一致を本質としない文献学]
フンボルト, ヴィルヘルム・フォン Humboldt, Wilhelm von 594
- 索引 512
ヘーゲル, ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ Hegel, Georg Wilhelm Friedrich 29-30,
42, 45, 69, 96, 109, 126, 158, 193, 202, 242, 247, 375 n.5, 463, 465, 494, 527, 532, 548,
649, 666, 676, 678, 682, 687, 714, 839 n.90
ペイントン, フランシス Bacon, Francis 57-58, 104, 504, 744 n.103
ベーベル, アウグスト Bebel, August 658

- 227, 234, 242, 246, 251, 259, 263, 300 n.113, 392-393 n.76, 402 n.115, 425 n.202,
 463-519 passim, 576, 593-594, 599, 628, 646, 695, 755 n.138, 849 n.129 [→〈チャンネル
 4〉, 秘教性記号論, 裏テロリズム, 顯教主義, 論理的秘教主義]
- 秘教性記号論 esoteric semiotics …… 80, 108, 118, 140, 461-519 passim, 650, 662, 682 [→〈チャ
 ンネル 4〉]
- ビゼー, ジョルジュ Bizet, Georges …… 516
- ヒッチコック, アルフレッド Hitchcock, Alfred …… 214
- ヒトラー, アドルフ Hitler, Adolf …… 112, 397 n.90, 672-673, 704-705
- ヒューム, ディヴィッド Hume, David …… 65, 79
- ピュシニグリュクスマン, クリチーヌ Buci-Glucksmann, Christine …… 607
- ピュタゴラス Pythagoras …… 299-300 n.113, 463
- ピラトゥス, ポンティウス Pilate, Pontius …… 87
- ビンスワンガー, ルートヴィヒ Binswanger, Ludwig …… 483
- ピンダロス Pindar …… 36
- Hindenburg, Paul von …… 659
- ファイインガー(ファイヒンガー), ハンス Vaihinger, Hans …… 433 n.231, 488, 660
- ファッショもどき - 自由主義 fascoid-liberal …… 111-116, 187, 207, 218, 233, 259, 512, 516,
 587, 628, 640, 649, 678-683, 764 n.162
- ファノン, フランツ Fanon, Frantz …… 161
- フィッシャー, オイゲン Fischer, Eugen …… 394 n.78
- フィッシュ, スタンリー・E Fish, Stanley E. …… 743 n.98
- フィヒテ, ヨハン・ゴットリープ Fichte, Johann Gottlieb …… 245-246, 527
- フィンク, オイゲン Fink, Eugen …… 561
- フィンリー, M・I Finley, M. I. …… 594, 788 n.269
- フーコー, ミシェル Foucault, Michel …… 20, 131, 157, 159, 168, 176, 210, 267, 362 n.341,
 500, 527-528, 547-548, 556, 573, 627, 653-654, 665, 698, 776 n.207, 825 n.12
- プーランザス(プーランツァス), ニコス Poulantzas, Nicos …… 201 n.93
- フェーゲリン, エーリク Vögelin, Eric …… 295-296 n.99
- フェヒナー, グスタフ Fechner, Gustav …… 499
- フェルスター, ゲオルク Förster, Georg …… 135, 346-347 n.291
- フェルスター＝ニーチェ, エリザベート Förster-Nietzsche, Elisabeth …… 350 n.297 bis, 478,
 659-660, 765 n.166
- フェルマン, ショシャナ Felman, Shoshana …… 616-617, 727-728 n.55
- フォイエルバッハ, ルートヴィヒ Feuerbach, Ludwig …… 466
- フォスコロ, ウゴ Foscolo, Ugo …… 496-497
- フォルマント formant …… 44-45
- 不気味／狡猾さ Un/canny …… 172, 616, 662
- フクヤマ, フランシス Fukuyama, Francis …… 274 n.11

- ハイパーテキスト hypertext 119-120, 135
ハイパー・メーシス(模倣を超える模倣) hypermimesis 214
ハイポグラム(イポグラム) hypogram 734-735 n.72
ハイム,マイケル Heim, Michael 119, 288 n.79
ハサンニイサッバーフ二世 Hassan i Sabbah II 581-582
バスティア,フレデリック Bastiat, Frédéric 606, 672, 797 n.295
パスティーシュ pastiche 119-121, 125, 555
パゾリーニ,ピエロ・パーオロ Pasolini, Pier Paolo 142, 154-155, 237, 358 n.326
バタイユ,ジョルジュ Bataille, Georges 23, 30, 80, 105, 111, 125, 130, 141, 143, 168, 200,
204, 214, 229, 236-237, 240, 247-263, 269-270, 271 n.1, 335 n.250, 390-391 n.67,
421 n.189, 422 n.191, 422 n.192, 431 n.218, 433 n.231, 437 n.246, 479, 518, 525,
527-529, 549, 551, 555, 558-559, 562, 610, 614, 618, 624, 639, 748 n.116, 768 n.179,
772 n.192, 825 n.12, 840 n.94
- 発語行為 locutionary act [→ 発語内行為]
- 発語内行為 illocutionary act 131-133, 137, 192, 199, 210, 212, 215, 220, 228, 259,
344-345 n.286, 392-393 n.76, 405 n.122, 474, 483, 485, 501-502, 505, 515, 525, 562, 586,
593, 599, 601, 616, 638
- 発語媒介効果 perlocutary effect [→ 発語内行為]
- バッド・リリジョン Bad Religion 816 n.373
ハヤティ,ムスタファ Khayati, Mustapha 684
バラード, J・G Ballard, J. G. 86
ハラウェイ,ドナ・J Haraway, Donna J. 180, 688-690, 692
バリス,ジェレミー Barris, Jeremy 726 n.52
バリバール,エチエンヌ Balibar, Étienne 35, 47, 77, 139, 272 n.7, 291 n.93, 318 n.184,
349 n.296, 402 n.114, 659, 660, 730 n.66, 856 n.154
バルザック,オノレ・ド Balzac, Honoré de 651, 826 n.20
バルト,ロラン Barthes, Roland 106, 238-239, 318 n.187, 347 n.293, 365 n.360, 417 n.172,
522
バルトリ,ジュリオ Bartoli, Giulio 827 n.23
バルナー,ヴィルフリート Barner, Wilfried 263
バルメニデス Parmenides 98
バロウズ,ウィリアム・S Burroughs, William S. 24, 278 n.27, 581-582, 618, 697,
780 n.233, 780 n.234
- 索引
- パロック:ニーチェとパロック Baroque: Nietzsche and Baroque 263-264, 434 n.234
ハンプシャー,スチュアート Hampshire, Stuart 429 n.206
- L78 美学(感性論) aesthetics 162, 179-188, 190-191, 194, 200, 228, 247, 251-252, 254, 260, 262,
264, 462, 472, 483, 501, 529, 611, 658, 662-663, 669-670, 684, 701, 705, 723 n.40
秘教主義 esotericism 33, 56-61, 80, 103, 105, 114, 118, 124, 151, 159, 173, 215, 221-222,

- 747 n.115, 769 n.187 [→ バロック, 啓蒙主義]
- 『善惡の彼岸』*Beyond Good and Evil* …… 135, 189, 482, 492-495, 498, 501, 505, 510-511, 515-516, 564, 570, 572, 584, 784 n.254
- 『ツアラトゥストラはこう語った』*Thus Spoke Zarathustra* …… 31, 33, 35, 103, 166-167, 180, 182, 189, 196, 477, 488, 492, 502, 504-505, 507, 514-516, 532-554, 562, 584, 589, 593, 597, 600-605, 608, 617-618, 621-622, 625, 630, 634, 659, 784 n.254, 808 n.351, 827 n.20, 830 n.40
- 「道徳外の意味での真実と嘘について」“On Truth and Lie in the Extra-Moral Sense” …… 633, 817 n.378
- 『道徳の系譜学』*On the Genealogy of Morals* …… 101, 189, 249, 531, 564, 568-572, 774 n.204, 776 n.208
- 『人間的な、あまりに人間的な』*Human, All-Too-Human* …… 491, 508, 600, 605, 671
- 『反時代的考察』(時代から外れた考察) *Untimely Meditations* …… 600, 612, 747 n.115
- 『悲劇の誕生』*The Birth of Tragedy* …… 123, 382 n.38, 600-601, 612, 626, 669
- 「文体の原理について」“On the Doctrine of Style” …… 36
- 『陽気な学問』*Gay Science* …… 130, 562, 591, 600, 747 n.227, 784 n.254
- 「われらが高等教育機関の将来について」“On the Future of Our Institutions of Higher Learning” …… 538
- ニーチェ／主義 Nietzscheanism …… 44-55, 89-92
- ニーチェ熱 Nietzsche fever …… 209
- ネグリ, アントニオ(トニ) Negri, Antonio(Toni) …… 19-20, 39, 122, 138, 253, 265, 272 n.7, 331-332 n.239, 349 n.296, 519, 681, 797 n.295, 838 n.81, 844 n.105
- ノイエ・ヴェルテ Neue Werte …… 209
- ノース, オリヴァー North, Oliver …… 95, 633
- ノルテ, エルンスト Nolte, Ernst …… 207, 787 n.263

は 行

- バーク, エドマンド Burke, Edmund …… 257, 431 n.215
- バーバ, ホミ・K. Bahbha Homi K. …… 367 n.369
- ハーバーマス, ユルゲン Habermas, Jürgen …… 131, 159-160, 206, 431-432 n.218, 672
- ハイデガー, マルティン Heidegger, Martin …… 20, 31, 52, 64-69, 73, 95, 98-102, 113, 149, 156, 191-195, 210-219, 226, 230, 247, 255, 302-305 n.129, 307 n.137, 307-308 n.138, 352 n.303, 359-360 n.331, 361 n.335, 367 n.369, 383 n.45, 383-384 n.46, 384 n.47, 394 n.78, 401 n.112, 402 n.115, 404-405 n.122, 428 n.204, 429 n.206, 462-463, 465, 475-476, 486-487, 492, 501, 523, 528, 533, 538, 545-547, 548, 558, 567, 598, 622, 673, 699-701, 721 n.20, 778 n.222, 806 n.340, 847 n.121

- ド・セルトー, ミシェル de Certeau, Michel 32, 692
ド・マン, ポール de Man, Paul 158, 210, 347-348 n.293, 362 n.339, 483, 530, 538, 577-578,
730-731 n.68, 731-732 n.69, 734-735 n.72, 757 n.146, 772 n.189, 778 n.222
ド・ラ・ボエシ, エチエンヌ De La Boétie, Étienne 296-297 n.103
ドイゼン, パウル Deussen, Paul 729 n.64
ドイル, アーサー・コナーン Doyle, Arthur Conan 116, 579, 667
ドゥブレ, レジス Devray, Régis 675
ドゥボール, ギー Debord, Guy 246, 376 n.8, 582, 673, 691, 780 n.233
ドゥルーズ, ジル Deleuze, Gilles 20, 34, 45-47, 78-79, 127, 131, 157, 164, 168, 260,
290 n.90, 309-310 n.140, 312 n.152, 336-337 n.255, 361 n.335, 381-382 n.37, 418 n.176,
423-424 n.196, 515, 529, 556, 561, 624, 627, 635-638, 664, 698, 748-749 n.116, 825 n.12
ドゥルーリー, シャディア・B Drury, Shadia B 226
ドーン, メアリー・アン Doane, Mary Ann 437 n.245
～として語る speaking as 293 n.97
ドストエフスキイ(フョードル・ミハイロヴィッチ) Dostoyefsky(Fyodor Mikhaylovich)
592
トッシュ, ピーター Tosh, Peter 701-702
トラスフォルミズモ(変形 - 転向) trasformismo 152, 649, 657, 675-683, 705
トリン・T・ミンハ Trinh T. Minh-ha 688, 842 n.104
ドレイファス, ヒューバート・L Dreyfus, Hubert L 405 n.122
トロツキー, レオン Trotsky, Leon 23, 161, 332 n.239, 332 n.239, 333-334 n.245,
355 n.317, 713

な 行

- ナウマン, C・G Naumann, C. G 803 n.322
ナバロ, フエルナンダ Navarro, Fernanda 149
名前 - 効果 name-effects 141, 203, 241, 309 n.140, 418 n.176, 556
ナンシー, ジャン=リュック Nancy, Jean-Luc 87, 250, 561

- ニーチェ, フリードリヒ・ヴィルヘルム Nietzsche, Friedrich Wilhelm:
『アンチクリスト』*Anti-Christ* 472
「ギリシア国家」「The Greek State」 593-599, 601-603, 637, 409 n.139
『偶像の黄昏』*Twilight of the Idols* 490, 504, 557, 709
『このひとをみよ』*Ecce Homo* 221, 500, 535, 538, 540, 541
「懺悔者および作家としてのダーフィト・フリードリヒ・シュトラウス」
“David Friedrich Strauss the Confessor and Writer” 769 n.187, 824 n.4
『曙光』*Day Break* 462, 473
「生にとっての歴史の効用と不利益」「The Use and Abuse of History for Life」 557,

ツェトキン, クララ Zetkin, Clara 205

- デ・サンクティス, フランチェスコ de Sanctis, Francesco 827 n.23
デ・マルシコ, アルフレード de Marsico, Alfredo 480
デ・ランダ, マニュエル De Landa, Manuel 554
デイヴィス,マイク Davis, Mike 20, 37, 41-42, 288-289 n.83, 315 n.171
デイヴィッドソン,アーノルド・I Davidson, Arnold I. 721 n.20
デイヴィッドソン,ドナルド Davidson, Donald 525
ディキンソン,エミリ Dickinson, Emily 571
ディケンズ,チャールズ Dickens, Charles 652-653
ディック,フィリップ・K Dick, Philip K 141, 143-144, 182, 438 n.247, 662, 699-705,
853-854 n.148, 855 n.151
テイラー,チャールズ Taylor, Charles 159, 649
テイラー,フレデリック・ウィンスロウ Taylor, Frederick Winslow 657
ディラン,ボブ Dylan, Bob 657
ディルタイ,ヴィルヘルム Dilthey, Wilhelm 486
ティレ,アレクサンダー Tille, Alexander 615
ティンパナーロ,セバスティアーノ Timpanaro, Sebastiano 349 n.296, 356-357 n.323
デカルト,ルネ Descartes, René 57-58, 63, 70, 75, 294 n.98, 309-310 n.140, 427-428 n.204,
428-429 n.206
デッラ・ヴォルペ,ガルヴァーノ Della Volpe, Garvano 824 n.12
デトワイラー,ブルース Detwiler, Bruce 408-410 n.139
テニエス,フェルディナント Tönnies, Ferdinand 202-203, 615
デュウズ,ピーター Dews, Peter 157, 360 n.331, 361 n.337
デューリング,オイゲン Dühring, Eugen 604, 803 n.322
デュマ(・ペール),アレクサンドル Dumas (Père), Alexandre 651, 826 n.20
テュレンヌ,アンリ・ド・ラ・トゥール・ドヴェルニユ,ヴィコント(子爵)・ド Turenne, Henri
de la Tour d'Auvergne, Vicomte de 779 n.227
デリーロ,ドン DeLillo, Don 841 n.103
デリダ,ジャック Derrida, Jacques 131, 141, 143, 164-165, 168, 210, 247, 276 n.13,
303-305 n.129, 342 n.279, 345 n.286, 365 n.360, 392 n.76, 396 n.84, 430 n.209, 475-477,
483, 517, 520-550 passim, 561, 565, 578, 599, 626, 728 n.58, 730-731 n.68, 736 n.76,
755 n.137, 755 n.138, 755-756 n.139, 756 n.143, 757 n.146, 758 n.148, 766 n.170,
778 n.222, 825 n.12, 843-844 n.105
テルトゥッリアヌス,クィントゥス・セプティミウス・フロレンス Tertullian (Tertullianus,
Quintus Septimius Florens) 619
テレヴィジョン(TV) television 37, 43, 138, 185, 286 n.70, 632, 645, 654-655, 669, 708,
816-817 n.373

- ゾロアスター(ツアラトゥストラ) Zoroaster(Zarathustra) 24, 581-582
孫子 Sun Tsu 95, 167, 628

た 行

- ターチュリアン, ニコラス Tertullian, Nicolas 308 n.138
ターナー, ブライアン・S. Turner, Bryan S. 281 n.46
第三の意味 third meaning 238-239
体内化 incorporation 27-36, 45-46, 89, 137, 156, 163, 191, 193, 196, 227, 238-239, 242, 393 n.76, 463, 465, 471, 499-500, 526, 548-549, 599, 601, 634, 649, 674, 701, 705
体内化とクローネンバーグ incorporation and Cronenberg 28
体内化とニーチェ incorporation and Nietzsche 27-28, 32-33, 465
体内化とハイデガー incorporation and Heidegger 31
体内化とヘーゲル incorporation and Hegel 29-31, 465
タウスク, ウィクトル Tausk, Victor 37
タウレク, ベルンハルト・H・F. Taureck, Bernhard H. F. 398 n.93
巽孝之 Tatsumi, Takayuki 243
タフーリ, マンフレド Tafuri, Manfredo 673-674, 749 n.116
ダメット,マイケル Dummett, Michael 828 n.25
ダルク, ジャンヌ D'Arc, Jeanne 95
タンセイ,マーク Tansey, Mark 162-163, 365 n.360, 579
ダンテ・アリギエリ Dante Alighieri 197-198, 389 n.60
- チェンバース, マリリン Chambers, Marilyn 184
力への意志(権力への意志) Will to Power 67, 101, 134, 153, 194, 215, 230, 262, 475-476, 481, 486, 489, 510, 515, 565-568, 596, 598, 606, 610, 614, 620, 622, 630, 639, 667, 694-695, 736 n.76
- チャーチル, ウィンストン Churchill, Winston 426 n.202, 512
〈チャンネル〉 Channels 137, 141, 143, 238-247, 250-251, 256, 260, 262-264, 266, 268, 432 n.222, 464, 466, 484, 518, 527-531, 548, 567, 570, 577-578, 853-851 n.148, 855 n.153
〈チャンネル4〉 Channel 4 131, 137, 141, 143, 238-247, 250-252, 258-260, 263, 267, 417 n.172, 460, 471, 483-484, 514, 525-531, 558, 578, 585, 704, 854 n.148 [→ 秘教主義, 秘教性記号論, 裏テロリズム, 識闇下(潜在意識)におけるコミュニケーション, 識闇下(潜在意識)への影響]
- 索引
チュオン・ソン Truong Son 95, 638
超人 Superman 103, 205, 224, 232, 346-347 n.291, 462, 464, 486, 489, 591, 597, 630, 635, 639, 651-652, 660, 673, 691, 736 n.76
調和論者 harmonizers 42, 605-606

- スイン・ホワイト・ロープ Thin White Rope 182
ズィマーマン, マイケル・E Zimmermann, Michael E. 405 n.122
崇高 sublime 139, 179, 251-252, 257, 272-273 n.55, 422-424 n.196, 424 n.197, 470, 478, 543
スキャリー, エレイン Scarry, Elaine 639
スコット, リドリー Scott, Ridley 551
スタイルン, ウィリアム Styron, William 224
ステイトン, ヘンリー Staten, Henry 414 n.162
ストロング, トレイシー・B Strong, Tracy B. 225, 408-409 n.138
スパリオス, ミハイ Spariosu, Mihai 764 n.162
スピーチ・アクト(言語行為) speech acts [→ 発語内行為]
スピヴァク, ガヤットリー・チャクラヴァルティ Spivak, Gayatri Chakravorty 756 n.139
スピノザ, ベネディクト・デ Spinoza, Benedict de 19-20, 32-35, 48-53, 63, 75-79, 96, 103,
108-109, 122-125, 141, 181, 196, 228-229, 244-246, 252-253, 263, 272 n.7, 289 n.87,
292-293 n.97, 294 n.98, 308 n.138, 309-310 n.140, 311-312 n.152, 317-318 n.184,
335 n.249, 350-351 n.298, 355 n.317, 425-426 n.202, 426 n.203, 427-428 n.204,
429 n.206, 463, 488, 508, 513-514, 518, 582, 611, 616, 800 n.309
スフォルツァ・パッラヴィチーノ Sforza Pallavicino 620
スプリンカー, マイケル Sprinker, Michael 578
スロウニー, ジェイムズ・ジェイ Slawney, James Jay 607
スローターダイク, ペーター Stoterdijk, Peter 128, 131, 160, 258-259, 833 n.55, 835 n.68
- 生彩化 vivification 131-132
政治学 politics 140, 187-188, 194, 200, 247, 252, 254, 262, 264, 472, 483, 529, 611,
662-663, 685, 701
政治存在論 political ontology 191-192, 402 n.115, 428 n.204
聖書(聖典) Bible 51, 103, 122-125, 190, 467, 492, 538, 554, 659, 703-704, 424 n.197,
737 n.80, 814-815 n.366, 830 n.40
生体解剖 vivisection 591
セジウィック, イヴ・コゾフスキイ Sedgwick, Eve Kosofsky 575
セラノ, アンドレス Serrano, Andres 283 n.52
セルツァー, マーク Seltzer, Mark 499-500
戦争機械 war machine 319 n.194, 636-638
- 相対主義 relativism 480-481, 729 n.63
ソクラテス Socrates 29-31, 42, 46, 105, 193, 281-282 n.49, 463, 552
ソシュール, フェルディナン・ド Saussure, Ferdinand de 551
そのもの性 ipseity 250-254
ゾラ, エミール Zola, Émile 126, 500
ソレル, ジョルジュ Sorel, Georges 230

- シャンジュー, ジャン=ピエール Changeux, Jean-Pierre 183
シュヴァイツァー, アルバート Schweitzer, Albert 704
シュールマン, ライナー Schürmann, Reiner 215-219
種族 brood 37, 154, 166, 174, 180-182, 184, 186, 196, 377 n.14, 499, 502, 654, 663 [→ サイコプラズミクス]
シュタイン, ルートヴィヒ Stein, Ludwig 650
シュッテ, オフェーリア Schutte, Ofelia 414 n.162
シュテーケル, ヴィルヘルム Stekel, Wilhelm 150
シュテッカー, ヘレーネ Stöcker, Helene 205-206, 615
シュトラウス, レオ Strauss, Leo 57, 168, 208, 225-227, 229, 392-393 n.76, 434-435 n.236,
464, 470, 509-510, 553, 558-559, 614, 736 n.76, 746 n.110, 774 n.204, 799 n.303,
855 n.153
シュトルマン, ライナー Stollmann, Rainer 658-659
ジュネ, ジャン Genet, Jean 59-60
シュペングラー, オスヴァルト Spengler, Oswald 517, 660
シュリュプマン, ハイデ Schlüpmann, Heide 205-206
シュレーダー, フリードリヒ・フォン Schlegel, Friedrich von 62-63, 302 n.126
シュレヒタ, カール Schlechta, Karl 740 n.90, 849 n.129
常識(共通感覚) common sense 65, 102, 173, 196, 212, 465, 467-469, 566, 610, 675
ショーペンハウアー, アルトゥル Schopenhauer, Arthur 34, 65, 109, 123, 153, 243, 252,
257, 356 n.323, 425 n.199, 429 n.206, 431 n.217, 473, 508, 517, 552, 567, 591, 595-596,
600, 616, 632, 672, 784 n.252
ジョーンズ, アーネスト Jones, Ernest 150-151
女性嫌悪 misogyny 585, 588, 596-599, 742 n.95
ジョンズ, ライオネル・S Johns, Lionel S. 634
ジョンソン, バーバラ Johnson, Barbara 293 n.97
ジョンソン, リントン・クウェシ Johnson, Linton Kwesi 20
シラー, フリードリヒ Schiller, Friedrich 532
ジン, グレッグ Ginn, Greg 632-633
身体／屍体 corps/e 27, 29-30, 32, 50, 85-93, 102, 104, 106, 111-112, 117, 120, 122,
131-132, 139, 162, 165-166, 169, 173, 178, 186, 188, 193-196, 199, 204, 207, 211-212,
221, 223-225, 228, 236, 239, 246, 252-253, 266, 303 n.129, 406 n.130, 461, 466, 472, 477,
483, 502-503, 527, 538, 542-543, 548-549, 555, 578, 580, 586, 601, 635, 639, 649-650,
659, 662, 672, 674, 676, 681, 683, 685, 687, 692, 705-706
- 索引
- 身体化 embodiment [→ 体内化]
人肉食儀礼 cannibalism [→ 体内化]
ジンメル, ゲオルク Simmel, Georg 645

遂行文 performatives [→ 発語内行為]

- サイエンス・フィクション (SF) science fiction 692-693
サイコプラズミクス (精神離体技法) psychoplasmics 37, 180-182, 325 n.210, 377 n.14,
421 n.184, 499, 502, 638, 654, 697 [→ 種族]
サイバースペース cyberspace 54, 118, 135, 174, 242-244, 519, 632, 646, 669, 688,
690-693, 697, 841 n.103, 844-845 n.109
サイバーパンク cyberpunk 116, 246, 355 n.317, 585, 690-698, 709, 850 n.132
サイボーグ cyborgs 34, 144, 163, 173-174, 180, 585, 687-688, 691-692, 501 [→ アンドロ
イド]
サス, ルイス・A Sass, Louis A. 728 n.59
サド, マルキ・ド Sade, Marquis de 559-560
- ジード, アンドレ Gide, André 771 n.139
ジェイ, マーティン Jay, Martin 156
シェイクスピア, ウィリアム Shakespeare, William 62-63
ジェイムソン, フレドリック Jameson, Fredric 18-19, 25, 40, 54-55, 106, 133-134, 152-153,
185-186, 238, 252, 262, 289 n.83, 327 n.215, 348 n.293, 377 n.16, 416-417 n.172, 478,
837 n.76, 853 n.148
シェーンベルク, アーノルト Schoenberg, Arnold 105
シェリング, フリードリヒ・ヴィルヘルム・ヨーゼフ Schelling, Friedrich Wilhelm Joseph
172, 375 n.5, 462, 527, 719-720 n.9
時間差作動タイマーのセット handicapping 55, 86, 144-145, 190, 300 n.115, 654
識闘下(潜在意識)でなされるコミュニケーション subliminal communication 33, 470,
478, 529, 534
識闘下(潜在意識)への影響 subliminal influence 102, 139-140, 187-188, 529, 626, 646,
662, 685
シクスー, エレーヌ Cixous, Hélène 66, 627
自己 self 34-35, 666-667
思考の文字化 logographics 824 n.6 [→ 語られる思考を文字に書き表わすことの必然
性]
ジジエク, スラヴォイ Žižek, Slavoj 19, 25, 75, 89-90, 106, 165, 214, 222-223, 256,
296-297 n.103, 317-318 n.184, 349 n.296, 571, 665-666, 668, 675-676, 687, 828 n.25,
833 n.55
事実との一致を本質としない文献学 anexact philology 108, 133, 198 [→ 文献学]
シナジー,マイケル Synergy, Michael 696
シニシズム(犬儒派哲学, キニク主義) cynicism 75, 128
シベリー, ジェイン Siberry, Jane 506
ジャガー, ミック Jagger, Mick 516, 780 n.230
シャツマン, エヴリー Schatzman, Evry 71
シャピロ, メイヤー Schapiro, Meyer 524

- ゲーデル, クルト Gödel, Kurt 65
ケーラー, ヨアヒム Köhler, Joachim 388 n.56
ゲーリング, ヘルマン Göring, Hermann 394 n.78
ゲオルグ, シュテファン George, Stefan 279 n.29, 560, 720 n.15, 830 n.40
ケスラー, ハリー Kessler, Harry 660
決定因としての不在 determinante absence 50, 69, 78-79, 82 [→ 不在の原因, 因果性]
ゲッベルス, ヨーゼフ Goebbels, Josef 190, 216
ゲバラ, エルネスト・チエ Guevara, Ernesto Che 95, 176
原因作用 causation 50, 64-65, 302-303 n.129, 307-308 n.138 [→ 因果性]
顯教主義 esotericism 33, 56-61, 75, 82, 123, 151, 217, 221-222, 226, 242, 263, 406 n.130,
413-414 n.161, 463-519 passim, 604, 646, 688-689, 695, 755 n.138 [→ 秘教主義, 秘教性
記号論, 裏テロリズム]
顕在 - 潜在性 actual-virtuality 48-51, 242, 559, 650, 658, 682
- 恋するひとのことばの流れ(恋愛のディスクール) Lover's discourse 318 n.187
高解像度テレビジョン(HDTV) High Definition Television [→ テレビジョン]
孔子 Confucius 24
高所人 Overman [→ 超人]
公然の秘密 public secrets 473, 482
コーエン, レナード Cohen, Leonard 95, 676, 855 n.153
ゴーチエ, テオフィル Gautier, Théophile 607, 798 n.301
ゴーディマー, ナディン Gordimer, Nadine 436 n.244
ゴードン, スチュアート Gordon, Stuart 583
ゴーリキ, マクシム Gorky, Maxim 208, 660
コーンゴールド, スタンリー Corngold, Stanley 284 n.57
コジエーヴ [コジエーヴニコフ], アレクサンドル Kojève [Kojevenikov], Alexandre 470,
799 n.303
コッリ, ジョルジョ Colli, Giorgio 488, 736 n.76
固定指示子 rigid designator 256, 419 n.176, 485, 495, 554, 596, 599, 650, 689, 734-735 n.72
コフマン, サラ Kofman, Sarah 475-477, 561
コミュニケーション communism 109-111, 331-332 n.239, 332-333 n.241, 368 n.376
孤立と(応答)責任 isolation and responsibility 66, 321 n.197, 716
ゴルドマン, リュシアン Goldmann, Lucien 82
コングリーヴ, ウィリアム Congreve, William 570

索

引

678

さ 行

- サール, ジョン Searle, John 345 n.286
サイード, エドワード・W Said, Edward W. 161

- 草むしりのプロセス process of weeding out …… 140-141, 478, 501, 583, 614, 627, 630-633, 635, 641, 646, 650, 662 [→ 安楽死]
- グツコウ, カール Gutzkow, Karl …… 172
- クライスト, ハインリヒ・フォン Kleist, Heinrich von …… 577, 636, 700
- クラウス, カール Kraus, Karl …… 645
- クラウス, ロザリンド Krauss, Rosalind …… 213
- クラウゼヴィッツ, カール・フォン Clausewitz, Karl von …… 95, 167
- グラシアン・イ・モラレス, バルタサル Gracián y Morales, Baltasar …… 503
- クラッシュ Clash …… 267
- グラフィン, グレッグ Graffin, Greg …… 816 n.373
- グラムシ, アントニオ Gramsci, Antonio …… 23, 51, 76, 79, 83, 102, 116, 120-121, 139, 141, 143-144, 152, 187, 194, 196-199, 280 n.41, 319 n.190, 332 n.239, 355 n.317, 436 n.244, 467-469, 496-498, 502, 558, 585, 603, 638, 647-652, 661, 668, 674-675, 678-680, 682, 685-686, 713, 722 n.24, 823 n.393, 825 n.12, 827 n.23, 840 n.94, 840-841 n.96
- クリステヴァ, ジュリア Kristeva, Julia …… 628, 666-667
- クリプキ, ソール Kripke, Saul …… 485, 419 n.176, 599
- グリム兄弟 Grimm Brothers …… 521, 830 n.40
- グリュクスマン, アンドレ Glucksmann, André …… 160
- クルメル, リヒャルト・フランク Krummel, Richard Frank …… 295 n.99
- クレイヴン, ウェス Craven, Wes …… 174, 654-655
- クレイリー, ジョナサン Crary, Jonathan …… 38, 39, 740-741 n.90
- クレイン, スティーヴン Crane, Stephen …… 500
- クレイン, ハート Crane, Hart …… 576
- グレマス, A・J Greimas, A. J. …… 181, 238
- クローカー, アーサー Kroker, Arthur …… 694, 848 n.123
- クローチェ, ベネデット Croce, Benedetto …… 69, 187, 649, 678, 682, 839 n.90
- クローネンバーグ, デイヴィッド Cronenberg, David …… 28, 134, 184, 245, 581, 377 n.14, 421 n.184, 850 n.133
- クロソウスキ, ピエール Klossowski, Pierre …… 141, 143, 168, 247, 551-563, 623, 626, 630, 825 n.12
- ケアリ, ヘンリー・チャールズ Carey, Henry Charles …… 42, 605-606, 672, 796 n.294, 797 n.295
- 経済的 - 同業組合的 economic-corporate …… 28, 280 n.41, 678
- 啓蒙(主義) Enlightenment; ニーチェと啓蒙主義 Nietzsche and Enlightenment …… 57, 73, 108, 126-130, 152-154, 160, 187, 206-208, 230, 249-261, 462, 478, 490, 560, 576, 585, 619, 663, 669, 680
- ゲーテ, ヨハン・沃尔夫ガング・フォン Goethe, Johann Wolfgang von …… 425 n.199, 552, 578, 830 n.40

- カーモード, フランク Kermode, Frank 703
階差機関(原動力としての - 差異)difference-engine 53, 71, 79, 143, 467, 636, 845 n.109
概念 concept 44-47
カイヨワ, ロジェ Caillou, Roger 269
カヴェル, スタンリー Cavell, Stanley 464-472, 721 n.20
カウフマン, ヴァルター Kaufmann, Walter 74, 246-247, 408 n.139, 835 n.68
カエサル, ユリウス Caesar, Julius 618, 621
カスティッリョーネ, バルダッサーレ Castiglione, Baldassar 503
ガスト, ペーター [ハインリヒ・ケゼリツ] Gast, Peter [Heinrich Köselitz] 488, 605
カストリアディス, コルネリュウス Castoriadis, Cornelius 147, 353 n.306
仮説 hypothesis 103-105
仮想現実(VR, ヴァーチャル・リアリティ) virtual reality 38, 135, 242-243, 352 n.210,
490, 492, 636
語られる思考を文字に書き表すことの必然性 logographic necessity 105, 130, 189,
227, 463, 470-471, 506, 557
ガタリ, フェリックス Guattari, Félix 19, 45-47, 68, 127, 164, 309 n.140, 381 n.37,
418 n.176, 825 n.12
カフカ, フランツ Kafka, Franz 104, 381-382 n.37, 619, 623, 652-653
カミュ, アルベール Camus, Albert 591-592, 786 n.261, 787 n.263, 825 n.12
カリニコス, アレックス Callicos, Alex 161, 288 n.78, 305 n.129
カルーゾ, パオロ Caruso, Paolo 157, 361 n.336
カルトホフ, アルバート Kalthoff, Albert 279 n.35
ガンジー, モハンダス・カラムチャンドー Gandhi, Mohandas Karamchand 95, 102
カンター, ポール Cantor, Paul 570, 411 n.144, 776 n.208
カント, イマヌエル Kant, Immanuel 69, 96, 108, 129, 134, 225, 251-252, 254-255,
257-260, 319 n.140, 422-424 n.196, 425 n.199, 429 n.206, 462, 527, 595, 666, 676
- ギアーツ, クリフォード Geertz, Clifford 393 n.76
キットラー, フリードリヒ・A. Kittler, Friedrich A. 741 n.92
ギブソン, ウィリアム Gibson, William 54, 243, 667, 844-845 n.109
キャロリ, クロード Caroly, Claude 275-276 n.13
キュング, ハンス Küng, Hans 160
ギュンター, ハンス Günther, Hans 640
索引
行間を読む reading between the lines 51, 56-61
キルケゴー, ゼーレン Kierkegaard, Søren 539, 551-552, 731 n.68, 806 n.340
ギングリッチ, ニュート Gingrich, Newt 656
188 ギンズブルグ, カルロ Ginzburg, Carlo 492, 619-620
- 偶然性唯物論 aleatory materialism 273 n.10, 321 n.197

- ヴィトゲンシュタイン, ルートヴィヒ Wittgenstein, Ludwig 34, 97, 492
- ヴィリリオ, ポール Virilio, Paul 91, 95, 168, 182-183, 199, 237, 376 n.8, 465, 633, 691, 694-695, 825 n.12
- ウィル・トゥー・パワー(ロックバンド) Will to Power(rock group) 209
- ヴィルジリオ(ヴィルジオリ?)・マルヴェッツィ Virgilio(Virgioli?) Malvezzi 620
- ヴェンダース, ヴィム Wenders, Wim 183
- ヴォー・グエン・ザップ Vo Nguyen Giap 95
- ウォーホル, アンディ Warhol, Andy 621
- ウォリン, リチャード Wolin, Richard 406 n.122
- ウォルフ, クリストアン Wolff, Christian 69
- ウォレン, マーク Warren, Mark 413 n.161
- 裏テロリズム esoterrorism 549, 583, 589, 591, 626-627, 655, 667 [→ <チャンネル4>]
- 永劫にわたる同の回帰 Eternal Recurrence of the Same 27, 31, 35, 95, 131, 140, 475, 486, 489, 494, 499, 502, 521, 532, 555, 560, 583, 601, 614-630, 639, 692, 695, 736 n.76, 806 n.340, 808 n.348, 814 n.366
- エーコ, ウンベルト Eco, Umberto 241, 461, 565
- エーレンバーグ, ジョン Ehrenberg, John 291 n.93
- エピクロス Epicurus 20, 96, 193, 195, 386 n.53, 586
- エルнст, パウル Ernst, Paul 650
- エンクルマ, クワメ Nkrumah, Kwame 95, 471
- エンゲルス, フリードリヒ Engels, Friedrich 23, 127, 202, 332 n.239, 604, 648, 658, 670, 685, 688, 711, 713, 788 n.269, 803 n.322
- エンペドクレス Empedocles 98
- オイケン, ルドルフ Eucken, Rudolf 660
- オースター, ポール Auster, Paul 245
- オースティン, J・L Austin, J. L. 131, 344-345 n.286, 565
- オーバー, ジョシア Ober, Josiah 594-595
- オトマン, ヘニング Ottmann, Henning 413 n.161
- オリエ, ドゥニ Hollier, Denis 269
- オリゲネス Origen 814-815 n.366
- オルデ, ハンス Olde, Hans 112
- オング, ウォルター・J Ong, Walter J. 320 n.195

か 行

- ガーダマー, ハンス＝ゲオルク Gadamer, Hans-Georg 73, 131, 156-157, 160, 211, 219, 483, 565, 756 n.143

- アルチュセールとデリダ Althusser and Derrida …… 302-305 n.129
アルチュセールとハイデガー Althusser and Heidegger …… 302-305 n.120,
307-308 n.138
- アルトー, アントナン Artaud, Antonin …… 28, 437 n.246
- アンセル＝ピアスン, ケイス Ansell-Pearson, Keith …… 405-406 n.125, 414 n.161
- アンダース, アニ Anders, Anni …… 740 n.90, 849 n.129
- アンダースン, ペリー Anderson, Perry …… 471
- アンダースン, ローリー Anderson, Laurie …… 693
- 暗点化 scotomization …… 584-585
- 安藤昌益 Ando Shoeki …… 350-351 n.298
- アンドレアス＝ザロメ, ルー Andreas-Salomé, Lou …… 248, 422 n.193
- アンドレール, シャルル Andrée, Charles …… 270, 439 n.252
- androイド androids …… 37, 142, 163, 195, 614, 680, 701 [→ サイボーグ]
- 安樂死 euthanasia …… 140, 224, 583, 590, 615-616, 784 n.254 [→ 草むしりのプロセス]
- イーグルトン, テリー Eagleton, Terry …… 572-573, 325 n.210
- イエス(キリスト) Jesus(Christ) …… 24, 87-88, 155, 703
- イエズス会士(イエズス会) Jesuits …… 503, 554-555, 583, 603-604, 610-613, 619-620,
740 n.86
- 一般性 I, II, III Generalities I, II, III …… 239-240
- イデオロギー ideology …… 76, 137, 277 n.23, 311 n.145
- イポリット, ジャン Hypolite, Jean …… 158, 242
- イリガライ, リュス Irigaray, Luce …… 388 n.56, 396 n.84
- 因果性 causality …… 49-51, 62-84, 156, 212, 224, 245, 302 n.129, 308 n.138, 309 n.139,
309-310 n.140, 314 n.167, 420 n.177, 429 n.206, 466, 483, 487-489, 497, 518-519, 522,
558, 569, 571, 652, 653, 655
- 因果律 causalism …… 482, 485 [→ 因果性]
- ヴァーグナー, コジマ Wagner, Cosima …… 596, 771 n.188
- ヴァーグナー, リヒャルト Wagner, Richard …… 44, 123, 190, 382 n.38, 425 n.199, 477, 505,
516, 552, 599-601, 604, 612, 632, 645, 709, 727 n.52, 784 n.252
- ヴァイアコム・ネットワークス・コーポレイション Viacom Networks Corporation ……
857 n.1
- 索引
● 索引
88
ヴァッティモ, ジャンニ Vattimo, Gianni …… 215-219, 825 n.12
ヴァレリー, ポール Valéry, Paul …… 164, 825 n.12
ヴィエッタ, シルヴィオ Vietta, Silvio …… 405 n.122
ヴィエネ, ルネ Viénet, René …… 172, 684
ヴィッラリ, パスクワーレ Villari, Pasquale …… 740 n.86
〈ヴィデオドローム〉 Videodrome …… 27, 34, 184-186, 264, 421 n.184, 506

索引

事項・人名・バンド名 (n. は注)

あ 行

- アードラー, アルフレート Adler, Alfred 150, 153-154, 164, 650
アイアランド, カーク・ライズィング Ireland, Kirk Rising 221-222, 771 n.189
アイザー, オットー Eiser, Otto 727 n.52
アイスナー, クルト Eisner, Kurt 650
アヴァター(化身) avatar 37, 166, 181-182, 638-639, 663, 667, 688
アウトライン構成術 outlining 746 n.110
アタリ, ジャック Attali, Jacques 517-518
アッシュハイム, スティーヴン・E Aschheim, Steven E 294-296 n.99, 765-766 n.169,
803 n.323
アドルノ, テオドーラ・W Adorno, Theodor W. 37, 73-75, 86, 129, 131, 159, 171, 190,
206, 211, 219, 225, 254, 269, 287 n.71, 311 n.147, 337 n.256, 359 n.330, 383 n.42,
386 n.53, 399 n.97, 466, 521, 552, 560, 604, 632, 663, 670-671, 693, 753 n.132,
806 n.340, 833 n.56
アナモルフォーシス(歪像) anamorphosis 587
アフマド, イジャーズ Ahmad, Ajaz 203, 293 n.97, 352 n.302, 372 n.391
アリストテレス Aristotle 24, 64-67, 104, 140, 187, 221, 228, 294 n.98, 598, 622,
755 n.138, 814 n.366
アルガーミッセン, コンラート Algermissen, Konrad 765 n.169
アルチュセール, ルイ Althusser, Louis 20, 35, 47, 49, 51-52, 54, 60, 63-64, 68-70, 72, 76,
78, 80-81, 93, 96-97, 103, 107, 109, 117, 122, 124, 137, 139-141, 147-150, 160, 169, 184,
195, 204, 222, 238-240, 243, 255, 273 n.10, 275 n.13, 296 n.101, 302-305 n.129,
307 n.137, 307-308 n.138, 310 n.140, 311 n.145, 318 n.184, 321 n.197, 332 n.239,
341 n.270, 342 n.280, 349 n.297, 354 n.310, 355 n.317, 362 n.341, 376 n.8, 391 n.73,
417 n.172, 434 n.236, 487, 518, 568, 571, 585-586, 588-589, 602, 607, 624, 634, 676, 681,
705, 710, 713, 748 n.116, 776 n.207, 781 n.240, 791 n.281, 825 n.12, 840 n.95,
842-843 n.104, 847 n.115